I-O DATA

TSR-MS4 取扱説明書

121944-01

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
4) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当します。
したがって、国外に持ち出す場合には、必ず日本国政府の輸出許可申請など必要な手続きをお取りください。
5) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
6) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
7) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
8) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用又はこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
9) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan.　We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
10) お客様は、本製品を一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
11) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
12) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

もくじ

本製品を使うまでの手順

以下の流れにしたがって、本製品を使う環境をつくりましょう。

必要なときに読むところ

本製品の付属情報や使用中のトラブルがあったときの解決法です。

特徴

本製品は、カメラ映像と音声をリアルタイムにインターネットなどのネットワークに配信できるサーバー機能を持ったカメラ搭載のネットワークビデオサーバです。従来このような映像配信では多くの機材と専門知識が必要でしたが、本製品では簡単な設定操作でインターネットを利用した映像配信が実現できます。

■動画フォーマットに『MPEG-4規格』を採用

パソコンに限らず、PDAや携帯電話などでも多く利用されている「MPEG-4規格」を採用しています。そのため、様々な環境においてスムーズな動画配信、閲覧が可能です。

MPEG-4により、従来の1/5～1/7のデータサイズを実現しました。

（従来のMotionJPEG比較）

JPEG形式の静止画の配信もサポートしています。

※本製品では携帯電話やPDAへのMPEG-4動画配信には対応しておりません。

※Windows Media Playerの仕様により、設定したビットレートにより4～7秒映像が遅延します。（Windows Media Player側でストリーム映像をバッファリングするためです。）

■映像と音声をミックスした動画コンテンツの作成・配信

「MPEG-4」を採用することにより、従来のMotionJPEGでは不可能であった映像と音声をミックスした動画コンテンツの作成と配信が可能になります。

作成された動画および静止画データは、ネットワークを通じて配信したり、CFメモリーカードに記録することも可能です。

Windows標準プレイヤであるWindows Media Playerで再生できます。

※Windows Media Playerの仕様により、設定したビットレートにより4～7秒映像が遅延します。（Windows Media Player側でストリーム映像をバッファリングするためです。）

※CFメモリーカードは弊社指定のCFメモリーカードを利用してください。
詳細は、【本製品に取り付けられるCFカード】(19ページ)を参照してください。

■コンパクトフラッシュカードスロットを装備

CF+™ Type Ⅱ準拠のスロットを装備しています。CFメモリーカードを挿入すると、動画記録が可能です。

また、その他の各種対応CFカードを挿入することにより機能を拡張することができます。（現在はメモリーカード、PHSカード、無線LANカードに対応しています。）

※これらの機能は弊社指定のCFカードでのみ有効です。。
詳細は、【本製品に取り付けられるCFカード】(19ページ)を参照してください。

■カメラとマイクを内蔵したネットワークビデオサーバ

カメラとマイクおよびサーバ機能を一体化したことにより、簡単にネットワークに映像を配信することが可能です。
また、外付けのビデオカメラやマイクを接続することにより、目的に合った様々な用途に利用することも可能です。

■トリガー入力端子を使って『センサー付きネットワークカメラ』

標準装備のトリガー入力端子を使用することで、「センサー付きネットワークカメラ」として応用が可能です。
トリガーとして外部センサー信号を接続し、外部センサーに連動して自動で動画の記録を開始・終了します。さらに、ユーザーへの通知や、記録した動画ファイルを指定したメールアドレスやFTPサーバーに転送することができます。

※外部トリガー端子の使用はサポート対象外です。

■『Webブラウザ』での動画の閲覧と操作設定

本体の設定や動画の閲覧は、Webブラウザで行なえます。
また、付属のモニタリングユーティリティを使用すると、最大４台の本製品の動画を同時に閲覧することができます。

■アクセス制限機能

ユーザIDとパスワードにより、特定のユーザーにのみアクセスを制限する事ができます。

各種ネットワーク環境への対応

本製品は内蔵LAN接続以外にも次のような様々なネットワークに対応しています。

■*無線ネットワーク環境への対応*

・本製品のCF+ ™ Type Ⅱ準拠スロットにIEEE802.11b対応 無線LANカードやPHSモデムカードを搭載することで、無線ネットワークなどのワイヤレス環境での運用が可能になります。

※IEEE802.11b対応無線LANカードのインフラストラクチャモード、アドホックモードをサポートしています。(ローミング機能はサポートしていません。)

※無線LANをインフラストラクチャーモードで使用する場合、別途無線LANアクセスポイントが必要となります。

※PHSカードを使用した場合、PPP接続となります。

■*PPPoE接続への対応*

本製品はPPPoE接続に対応しています。そのため、ADSLモデムに本製品を直接接続することが可能です。

※PPPoE機能は本製品内蔵のLANインターフェイスのみで利用可能であり、CF+ ™ Type Ⅱ準拠スロットに搭載した無線LANカード等では利用することができません。

■*PPP接続への対応*

・本製品はPPPダイヤルアップ機能およびPPPサーバー機能を内蔵しています。

・PPP機能は、CF+ ™ Type Ⅱ準拠スロットにPHSカードを搭載した場合に使用します。

・PPPダイヤルアップ機能は、PHSカードを搭載している場合に、トリガー動作時(トリガー機能)やIPアドレス変更時(IPアドレス通知機能)により、本製品から外部へ接続を行う際に使用され、必要に応じて自動的にダイヤルアップ接続が行なわれます。

※本機能を使用するためには、PPPダイヤルアップ設定を行う必要があります。

・PPPサーバ機能は、PPPダイヤルアップ機能とは逆に外部からの本製品に対して直接、電話回線経由で接続される場合に使用されます。

※本機能を使用するためには、PPPサーバーの設定を行なう必要があります。

※本機能はPHS/アナログモデムカードへの着信トリガー機能と同時に使用することはできません。

・PPPサーバ機能では、通常のユーザー名・パスワードの認証以外に、発信者番号通知によるアクセス制限を行う事も可能です。

■IPアドレス通知機能について

・*動的IPアドレス環境下での運用サポート*

DHCP運用時、多くの場合、自動取得したIPアドレスが一定時間ごとに変更されます（動的IPアドレス環境）。そのため本製品が取得したIPアドレスの特定が困難となります。しかし、本製品では「IPアドレス通知機能」により動的IPアドレス環境下での運用がサポートされているため、IPアドレス変更時にユーザーへの「メール通知」もしくは「FTP転送」といった機能により、容易にIPアドレスを特定することが可能です。

・*メール通知*

IPアドレスが変更された場合、その新しく取得したIPアドレスを記述した電子メールをあらかじめ設定された電子メールアドレスに自動的に送信します。

・*FTP転送*

IPアドレスが変更された場合、その新しく取得したIPアドレスを記述したリンクファイルをFTPにより、あらかじめ設定されたFTPサーバーへ自動的に転送します。

・IP アドレス通知機能は本体内蔵 LAN ポートの内蔵 LAN 接続の他に、PPP 接続、無線 LAN 接続、PPPoE 接続でも使用できます。
・動的 IP アドレス環境下かどうかの確認は、ネットワーク管理者もしくはプロバイダーにお問い合わせください。
・DHCP 運用時に、一度本製品の電源を切断する（停電時なども）と、自動取得していた IP アドレスが開放されるため、電源再投入後、自動取得された IP アドレスが電源切断前のものとは異なる場合があります。この場合も IP アドレス通知機能を設定しておけば、対応できます。（一般的には機器固有の MAC アドレスに対して IP アドレスが自動的に割り振られるようになっています）

[IP アドレス通気機能によるメール通知のフォーマット]

以下の内容でメールが送信されます。

件名：TSR-MS4 IP address notificaition
内容：TSR-MS4 IP address Information
IP address　　192.168.0.100
Subnet mask　　255.255.255.0

必ずお守りください

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。
弊社の本製品以外の製品全般についての内容も記載しています。

■警告および注意表示

	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味

この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「発火注意」を表す絵表示

この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「分解禁止」を表す絵表示

この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守し、正しい手順で使用してください。

警告・注意事項を無視すると人体に多大な損傷を負う可能性があります。
また、正しい手順で操作しない場合、予期せぬトラブルが発生する恐れがあります。ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意事項、正しい手順を厳守してください。

本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因となります。
修理は弊社修理係にご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

電源がある場合は、電源を切ってコンセントからプラグを抜いてください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

本製品の取り扱いは、必ず取扱説明書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

●接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。
　指定品以外を使用すると火災や故障の原因となります。
●ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。
●給電されているLANケーブルは絶対に接続しないでください。
　給電されているLANケーブルを接続した場合には発煙したり、火災の原因となることがあります。

屋外ではご利用いただけません。

屋外でのご利用は動作対象外です。

本製品の取り付け、取り外し、移動の際は、必ずパソコン本体・周辺機器の電源を切り、本製品の電源ケーブルのプラグを電源コンセントから抜いてから行ってください。

電源ケーブルを抜かずに行うと、感電および故障の原因となります。

本製品を濡らしたり、水気の多い場所で使用しないでください。

お風呂場、雨天・降雪中、海岸・水辺での使用は火災・感電・故障の原因となります。

決められた電流内で使用してください。

本製品を出力電流の絶対最大定格を超えた電流で使用または保管すると火災・感電・故障の原因となります。

故障や異常のまま、通電しないでください。

本製品に故障や異常がある場合は、必ずパソコンから取り外してください。また、電源やACアダプタがある場合は、通電をしないでください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

日本国外で使用できません。

本製品は安定した場所に設置してください。

ぐらついた台の上や傾いたところには置かないでください。
落ちたり、倒れたりして事故の原因となります。水平なところに置いてください。

通気孔をふさがないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。

火災・感電・故障の原因となります。

雷がなったらACアダプタや本製品に触れないでください。

雷により感電の原因となります。

電源ケーブルについて

電源ケーブルの取り扱いは以下のことにご注意ください。

●電源ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。

●電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張ると、断線または短絡して、火災・感電・故障の原因となります。

●濡れた手で電源ケーブルのプラグを、コンセントに接続したり抜いたりしないでください。感電の原因となります。

●電源ケーブルがコンセントに接続されているときには濡れた手でパソコン本体に触らないでください。感電の原因となります。

●電源ケーブルのプラグはほこりが付着していないことを確認し、根本までしっかり差し込んでください。ほこりなどが付着していると接触不良で火災の原因となります。

ACアダプタについて

AC アダプタの取り扱いは以下のことにご注意ください。

火災・感電の原因となります。

●ACアダプタを使用する際は、必ず添付のACアダプタもしくは指定のACアダプタを使用してください。

●ACアダプタの上にものをのせたり、かぶせたりしないでください。

●ACアダプタを保温・保湿性の高いもの（じゅうたん・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）の上ではご使用にならないでください。

発火注意

●ACアダプタはAC100V以外の電圧で使用しないでください。

本製品に添付のACアダプタは、AC100V専用です。指定以外の電源電圧で使用しないでください。

⚠ 注意

注意

本製品を使用する際に、取扱説明書などでの操作手順説明と異なった操作をしてデータが消失した場合は、データの保証は一切いたしかねます。

取扱説明書などで、操作方法を確認して操作してください。
また、故障に備えて定期的にバックアップを行ってください。
修理の際、検査のためにデータの消去などを行う場合があります。修理にお出しになる前にもバックアップを行ってください。

禁止

本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

●振動や衝撃の加わる場所
●直射日光のあたる場所
●湿気やホコリが多い場所
●温湿度差の激しい場所
●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
●強い磁力・電波の発生する物の近く
（磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
●水気の多い場所（台所、浴室など）
●傾いた場所
●本製品に通風孔がある場合は、その通風孔をふさぐような場所
（保管は問題ありません）
●腐食性ガス雰囲気中（CI_2、H_2S、NH_3、SO_2、NO_Xなど）
●静電気の影響の強い場所
●保温性・保湿性の高い（じゅうたん・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所（保管は問題ありません）

禁止

本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

●落としたり、衝撃を加えたりしない
●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
●重いものを上にのせない
●本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない

パソコンから本製品にアクセス中（インジケータが点滅および点灯中）に電源を切ったり、パソコンをリセットしないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

ケーブルについて

●ケーブルは足などに引っ掛からないように、配線してください。足を引っ掛けると、けがや接続機器の故障の原因となります。

●熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接触不良などの原因になります。

その他使用上の注意

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては十分注意してください。

■取り扱い上の注意

・コネクタ部分に金属を差し込まないでください。

・ぬらさないでください。

・ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。

・モータなどノイズが発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してお使いください。

■誤接続の注意

LANコネクタ(RJ-45)には、適応規格外のケーブル(電話用ケーブル、INSケーブルなど)を挿し込まないでください。

■オーディオケーブル接続時の注意

外部マイク入力端子に一般のオーディオ機器(LINE-OUT)を接続する場合は、市販の抵抗入りと書かれた接続ケーブルをご使用ください。

抵抗なしのケーブルで直接つなぎますと、インピーダンスが合わないため、正常な音声入力が行えず、本製品にダメージを与える恐れがあります。

■修理について

・本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。

改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

1 使う前の準備

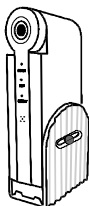
ここでは、本製品を使う前の作業について、順を追って説明しています。

箱の中を確認する

ご使用の前に、以下のものがそろっていることを □ にチェックをつけながら、ご確認ください。万一、不足品がありましたら、弊社サポートセンターまでお知らせください。

注意！

- **箱や梱包材は大切に保管し、修理などの輸送の際にご利用ください。**
- **イラストは若干異なる場合があります。**

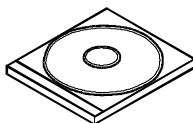
□ 本製品

背面にコンパクトフラッシュダミーカードが挿入されています。

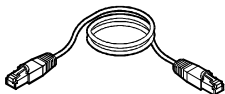
□ クロスLANケーブル（1本：約1m）［緑色］

□ ストレートLANケーブル（1本：約1m）［黒色］

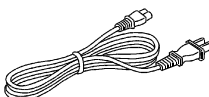
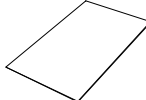
□ ACアダプタ（1個）

□ 電源ケーブル（1本）

□ サポートソフトCD-ROM（1枚）

□ L字ブラケット（1個）

本製品を壁に取り付ける場合に使用します。以下のネジをご使用ください。

□ L字ブラケット取付用ネジ（2本）

□ 台座取付用ネジ（1本）

□ ハードウェア保証書（1枚）

□ 簡単設定マニュアル（1冊）

☑ 取扱説明書（1冊）

ユーザー登録とサポートソフトのダウンロードについて

▼ここにシリアル番号をメモしてください。

シリアル番号は本製品の裏面に貼られているシールに「ABC0987654ZX」のように印字してあります。
※ シリアル番号は本製品の裏面に貼られている12桁（ 例：ABC0987654ZX ）のものです。
シリアル番号は、ユーザー登録の際に必要です。
⇒ http://www.iodata.jp/regist/
弊社ホームページよりサポートソフトをダウンロードする際にも必要な場合があります。
⇒ http://www.iodata.jp/lib/

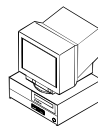
取扱説明書に記載されていない内容

「サポートソフト」CD-ROM内の[Manual]フォルダ内に以下の内容が記載されているPDFファイルがあります。必要に応じてお読みください。

Web 設定詳細	本書以外の詳細な各画面の設定内容が記載されています。
IP アドレス設定ユーティリティ	本製品のネットワーク上からの検索、および IP アドレスの設定を行うユーティリティです。
モニタリングユーティリティ	本製品をネットワーク上で複数台ご利用になっている場合に便利なユーティリティです。 最大4台（4つの画面）を見ることができます。

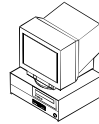
必要なパソコン環境を確認する

本製品をご利用になるパソコンを確認します。

本製品の映像が見られるパソコン

本製品の映像を見るには、以下のパソコンが必要です。

対応機種	NEC PC98-NX シリーズ DOS/V マシン※1
対応 OS （日本語版）	Windows XP Windows 2000（Service Pack2 以降） Windows Me Windows 98 SE Windows CE Pocket PC 2002 以降*(静止画閲覧のみ可)*
プロトコル	TCP/IP プロトコルがインストールされていること
LAN インターフェイス	10BASE-T の LAN アダプタ(Ethernet)が内蔵および装着され正常に動作していること
Web ブラウザ	Internet Explorer 5.5 以降※2
ソフトウェア	Windows Media Player 7.1 以降※3
インターネット環境	本製品の映像を見るために必要なコーデックをインストールするために必要

※1 弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認を行っております。
※2 ActiveX、JavaScriptを有効に設定する必要があります。
　詳細は、【Webブラウザのセキュリティを設定する】（85ページ）を参照してください。
※3 MPEG-4、G.726、GSM-AMRに対応したコーデックが別途、必要となります。
　詳細は、【2.コーデックソフトをインストールする】（80ページ）を参照してください。

本製品を設定できるパソコン

本製品を設定するには、以下のパソコンが必要です。

対応機種	NEC PC98-NX シリーズ DOS/V マシン※1
対応 OS （日本語版）	Windows XP Windows 2000（Service Pack2 以降） Windows Me Windows 98 SE
プロトコル	TCP/IP プロトコルがインストールされていること
LAN インターフェイス	10BASE-T の LAN アダプタ(Ethernet)が内蔵および装着され正常に動作していること
Web ブラウザ	Internet Explorer 5.5 以降※2
CD-ROM ドライブ	添付ユーティリティをインストールする場合に必要

※1 弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認を行っております。
※2 ActiveX、JavaScriptを有効に設定する必要があります。
　詳細は、【Webブラウザのセキュリティを設定する】（85ページ）を参照してください。

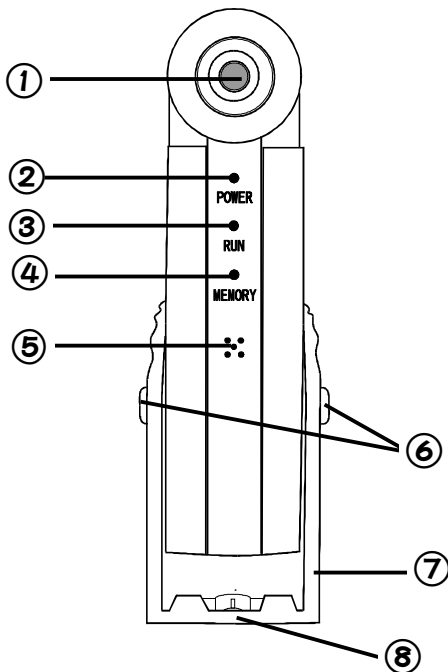
本製品に取り付けられるCFカード

本製品背面には、CF Type　Ⅱ準拠カードスロットがあります。
このCFカードスロットにメモリーカード、PHSカード、無線LANカードを挿入することによって機能を追加することができます。
現在本製品がサポートしているCFカードは以下のとおりです。

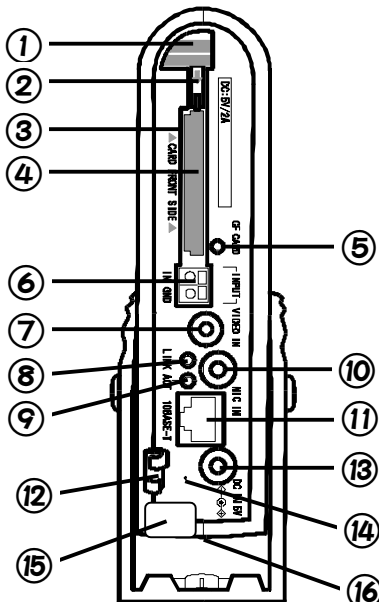
カード種別	製品名
フラッシュメモリカード	CFS シリーズ
無線 LAN カード *(IEEE 802.11b)*	WN-B11/CF
PHS カード	NTT ドコモ　P-in m@ster
	DDI ポケット　C@rd H” petit（CFE-01、CFE-01/TD）
マイクロドライブ	CFMD-1Gi

その他最新の対応 CF カードについては弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/）をご確認ください。

各部のなまえとはたらき

■前面■

No	名称	用途
①	レンズ部	キズつけないようご注意ください。
②	POWERランプ	本製品の電源状態を表示します。 電源ON時:　緑点灯 電源起動中:　緑点灯 電源OFF時:　消灯 ※電源ON後、起動するまでに約60秒間は以下となります。 「②POWERランプ」　→　緑点灯 「③RUNランプ」および「④MEMORYランプ」 →　2つのランプが同時に緑とオレンジの点滅を繰り返す。 その後（点滅停止）から約10秒後に起動が完了

③	RUNランプ	ストリーム配信状態を表示します。 配信時:　　　緑点滅 無配信時:　　消灯 配信異常時:赤点灯
④	MEMORYランプ	データ記録状態を表示します。 記録中:　　　緑点灯 無記録時:　　消灯 記録異常時:赤点灯 CFカードの空き領域不足時:　　赤点滅
⑤	内蔵マイク	本製品の回りの音を取り込みます。
⑥	本体固定用ネジ （左右2カ所）	前後30度程度、傾けることができます。
⑦	台座	本製品を机などに置くときの台となります。 *※常に取り付けて使用します。*
⑧	三脚取り付け穴	JIS B7103 1/4規格に適合した三脚取り付けようネジに対応しています。

■背面■

No	名称	用途
①	通気孔	ふさがないでください。
②	カード取り出しボタン	CFカードを取り出すボタンです。(取り出し方の詳細は【CF(コンパクトフラッシュ)カードを使う】94ページ参照)
③	コンパクトフラッシュカードスロット	CFカードの挿入口です。 *※出荷時には、CFダミーカードが挿入されています。* *本スロットをご使用にならない場合は必ずダミーカードを挿入しておいてください。*
④	コンパクトフラッシュダミーカード	CFカードスロットにゴミやほこりが入らないようにするためのものです。 取り出した場合は、なくさないようご注意ください。
⑤	CF CARDランプ	CFカードの認識状態を表示します。 CFカードを挿入して認識すると、緑色に点灯します。 認識されなかった場合は、点灯しません。
⑥	トリガー入力端子(IN/GND)	詳細は、【トリガー入力端子について】(168ページ)を参照してください。 *※トリガー入力端子はサポート対象外です。*
⑦	ビデオ入力端子(RCA)	ビデオカメラ側の出力端子との接続端子です。
⑧	LINKランプ	LANのリンク(接続)状態を表示します。 リンク時: 緑色点灯 リンク切断時: 消灯
⑨	ACTランプ	LANのデータ送受信状態を表示します。 データの送受信に応じて緑色に点滅します。
⑩	マイク入力端子	Φ3.5mmモノラルミニジャック *※一般のオーディオ機器(LINE-OUT)を接続する場合は、市販の抵抗入りと書かれた接続ケーブルをご使用ください。*
⑪	10BASE-T LANポート	イーサネット(Ethernet)ケーブルを接続します。
⑫	ACアダプタケーブル固定用フック	添付のACアダプタケーブルをひっかけて簡単に抜けないように固定するためのものです。(詳細はxxページ参照)
⑬	DCコネクタ	添付のACアダプタのDCプラグを挿入します。
⑭	全初期化ボタン	各種設定を初期値(工場出荷値)に戻します。 細長いピン(クリップの先)などで押しながら電源を投入します。
⑮	シリアルNo. MACアドレスシール	本製品のシリアルNo.およびMACアドレスが表示されたシールが貼られています。
⑯	通気孔	ふさがないでください。

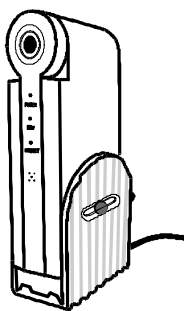
2 設置や基本操作

ここでは、本製品を使う前の作業について、順を追って説明しています。

設置場所について

本製品を設置する際には、周辺の環境に充分注意してください。
本製品は、電波によって通信を行いますので、環境によっては正常に通信できなくなる場合があります。

机の上などに設置する場合

本製品を机など平らな面の上に設置します。

三脚に設置する場合

本製品は、以下の部材を利用して取り付けることができます。

- 一般的な市販の三脚（JIS B 7103 1/4規格のネジが使用されていること）
- 三脚取付用ネジ（JIS B 7103 1/4）が使われている市販のブラケット

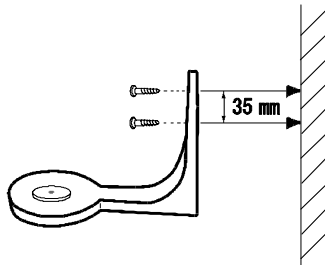
壁にかける場合

本製品を壁にかけて設置する場合には、添付の「L字ブラケット」を使って設置します。

1 本製品を設置する壁の位置を決めます。

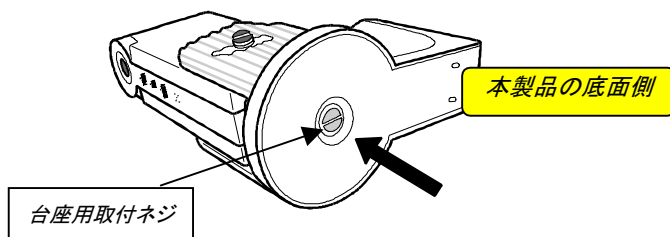
2 添付の「L字ブラケット」を[L字ブラケット取り付け用ネジ]2本でプラスドライバなどを使って以下のように壁に取り付けます。

・2本のネジは床に対して垂直

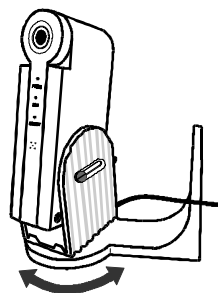
・ネジのセンター同士は約35mm

添付のL字ブラケット取付用ネジで壁に取り付ける際は、以下にご注意ください。

- 壁に十分な厚みと強度があることを確認した上で、強固・確実に取り付けてください。
- 必ず2本のL字ブラケット取付用木ネジを使用してください。1本だけ使用して取り付けると、落下の危険性が生じますので、絶対におやめください。
- L字ブラケットは、本製品本製品を取り付ける円盤部分が下側になるよう、まっすぐに取り付けてください。L字ブラケットを斜めや逆さにしないでください。
- ネジを強くしめ過ぎて壊さないように注意してください。
- L字ブラケットは、本製品の取り付け以外には使用しないでください。
- 壁に取り付けた本製品、およびL字ブラケットのそばを通るときは、ぶつかったり、物をぶつけないように注意してください。

3 本製品を取り付けます。

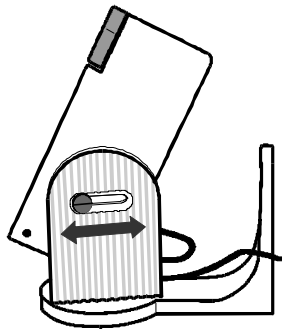
本製品を壁に取り付けたL字ブラケットに載せ、下側から添付の「台座用取付ネジ」で固定してください。

本製品をＬ字ブラケットに取り付ける際は、以下にご注意ください。

- 本製品の電源を切り、すべてのケーブル類を外した状態で行なってください。
- ネジを強くしめ過ぎて壊さないように注意してください。
- 壁に取り付けた本製品、およびＬ字ブラケットのそばを通るときは、ぶつかったり、物をぶつけないように注意してください。

Ｌ字ブラケットを固定している台座取付用ネジをゆるめることで、本製品の左右の角度を調整できます。
角度が決まったら、台座取付用ネジをしめ、本製品を確実に固定してください。

角度の調整について

本製品本製品の角度を調整することができます。

前後の角度

本製品は、本製品側面の固定用ネジを両側ともゆるめることにより、前後に30度ずつ角度を調整することができます。
角度が決まったら、本製品側面のネジでしめ、固定してください。

注意！

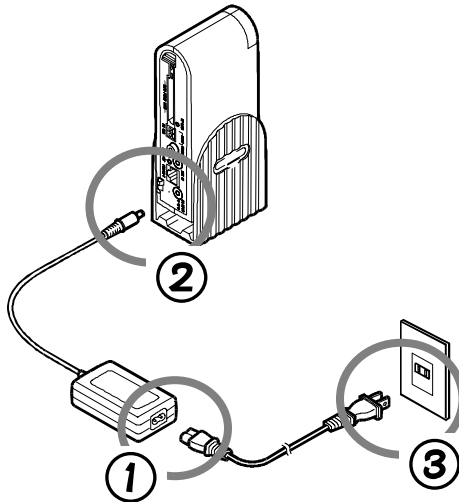
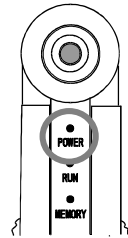
- 固定用ネジを片側だけゆるめての調整はしないでください。本製品や台座が壊れる恐れがあります。
- 台座を加工するのは危険ですので、絶対におやめください。
- 固定用ネジをしめる際には、両側とも均等にしめてください。
  片側だけをかたくしめたりすると危険ですので、おやめください。
  また、ネジをしめすぎて台座を壊さないように注意してください。

電源を入れる・切る

本製品の電源は、電源プラグをコンセントから抜き差しすることで行います。

電源を入れる

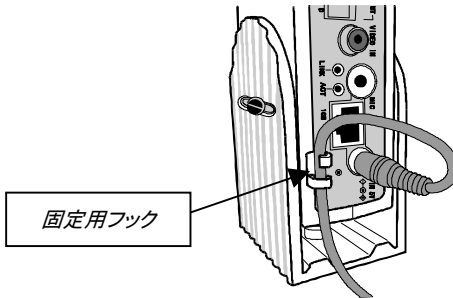
1 添付の「ACアダプタ」と「電源ケーブル」を接続後、
「ACアダプタ」を本製品に接続し、電源コンセントに接続します。

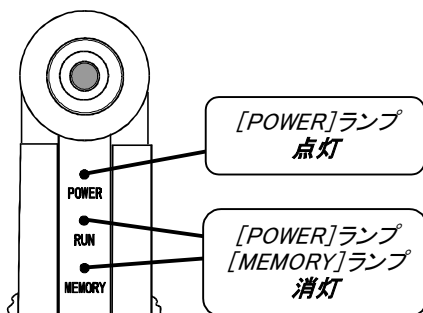
→本製品背面の[POWER]ランプが緑色に点灯することを確認してください。
ランプ点灯後、しばらく起動準備を行います。
起動が完了するには、電源投入後、*約70秒* かかります。（以下の【注意】参照）
[POWER]ランプのみが点灯していれば起動完了です。

注意！

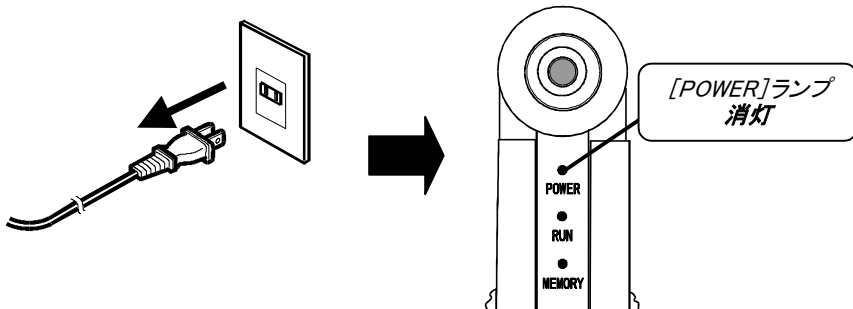
・本製品の起動には電源投入後、約 70 秒かかります。
本製品表面パネルの[POWER]ランプが緑に点灯したあと、起動中は[RUN]ランプと[MEMORY]ランプが2つとも同時に緑とオレンジの点滅を繰り返します。
起動完了後、[POWER]ランプのみが緑に点灯します。

・電源を入れる際には、DC プラグを本製品背面の DC コネクタに取り付けてから、電源プラグをコンセントに挿してください。
逆に電源プラグをコンセントに挿してから、DC プラグを本製品背面の DC コネクタに取り付けると感電を引き起こす原因となります。
・電源を入れた後、異臭や異音、発熱、その他異常がないか確認してください。異常があれば、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、使用を中止してください。
火災、感電、故障を引き起こす原因となります。
・AC アダプタを『電子式変圧器』などに接続しないでください。
発熱や故障の原因となります。
・AC アダプタの近くでラジオなどを使用すると、雑音が入る場合があります。
AC アダプタから離してご使用ください。

2 ケーブルを固定用フックに固定します。

ACアダプタのDCプラグに近いケーブルを、本製品背面の固定用フックに通し、ケーブルを固定してください。
DCプラグの抜けを防止するために、固定用フックに必ずケーブルを通して固定してください。
また、固定用フックにケーブルを通す際には、ケーブルのループが上を向く状態でフックに固定してください。

電源を切る

1 本製品へのアクセス*（本製品へのアクセスおよびCFカードご利用の場合はCFカードへのアクセス含む）*がないことを確認してください。
※以下のような状態であればOKです。

・本製品へのアクセス中には、絶対に電源を切らないでください。
故障の原因となります。
本製品で CF（コンパクトフラッシュ）カードをお使いの場合は、CF カードにアクセスがないこともご確認ください。
・電源を切る際には、本製品背面の[DC コネクタ]から DC プラグを抜くのではなく、最初に電源プラグを抜き、その後 DC プラグを抜いてください。
感電の原因となります。

2 電源ケーブルをコンセントから抜きます。
→ [POWER]ランプが消灯することを確認します。

本製品の映像を見るには

本製品の映像を見るには、設定用パソコンで、導入するネットワークに応じた本製品の設定が必要です。
また、本製品を設定するパソコンの設定も必要です。
以下の手順に従って作業を進めてください。

作業1：本製品を設定するパソコンの準備 ････33ページ

本製品の映像を見るには、本製品の設定が必要です。
設定はパソコン（設定用パソコン）から行いますが、本製品を接続後、設定用パソコン自体の設定を行います。

作業2：ネットワークに導入する ････61ページ

導入したいネットワークに応じた本製品の設定を行います。
導入するネットワークをご確認ください。

作業3：映像を見る ････77ページ

ネットワークに導入後、本製品の映像を見てみましょう。
映像を見るために必要なソフトウェア設定を行ってください。

3 本製品を設定するパソコンの準備

1. 設定用パソコンを接続する

本製品の映像を見るには、最初に本製品を設定する必要があります。

パソコン（設定用パソコン）１台のみを本製品に接続してください。

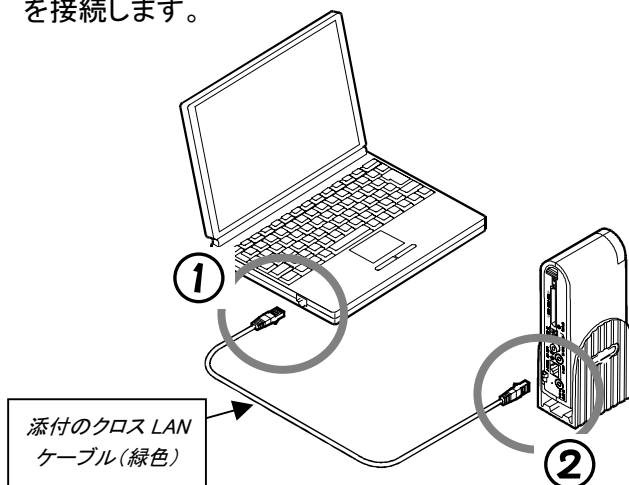
1 本製品の電源が切れている*（[POWER]ランプが消灯している）*ことを確認します。

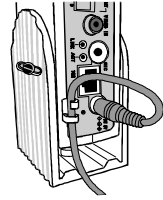
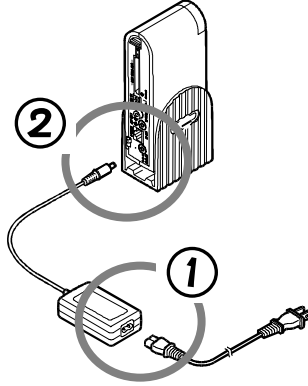
電源が入っている場合は、電源ケーブルをコンセントから抜きます。

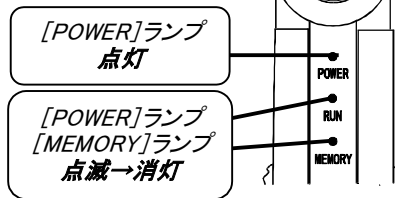
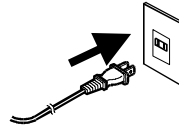
→ ［POWER］ランプが消灯することを確認します。

- **電源を切る際には、本製品背面の［DC コネクタ］から DC プラグを抜くのではなく、最初に電源プラグを抜き、その後 DC プラグを抜いてください。感電の原因となります。**
- **本製品へのアクセス中には、絶対に電源を切らないでください。故障の原因となります。本製品で CF（コンパクトフラッシュ）カードをお使いの場合は、CF カードにアクセスがないこともご確認ください。**

2 パソコンの電源が切れていることを確認します。

3 添付のLANケーブル（クロスケーブル：緑色）で本製品とパソコンのみを接続します。

5 電源ケーブルとACアダプタを接続後、本製品にACアダプタを接続します。

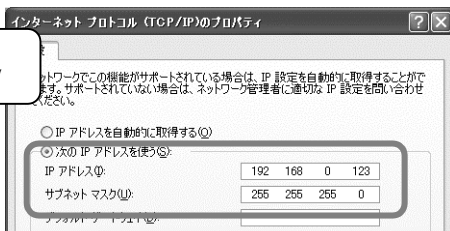
ACアダプタケーブルは必ず背面の「固定用フック」に取り付けて外れないようご注意ください。）

4 電源ケーブルをコンセントに接続し、本製品の電源を入れます。

起動が完了する*（[POWER]ランプのみが緑色に点灯すること）*まで約70秒ほど、お待ちください。

・**電源投入後、本製品表面パネルの[POWER]ランプが緑に点灯したあと、起動中は[RUN]ランプと[MEMORY]ランプが2つとも同時に緑とオレンジの点滅を繰り返します。起動完了後、[POWER]ランプのみが緑に点灯します。**

5 本製品の起動完了後、パソコンの電源を入れます。

この後、次ページへお進みください。

2. IPアドレスを設定する

本製品を設定するには、パソコン(設定用パソコン)のIPアドレスを設定する必要があります。

以下の手順で設定してください。

1 設定用パソコンの電源を入れます。

2 設定用パソコンのIPアドレスの設定を行います。
設定はご使用のOSによって異なります。以下の該当する個所へお進みください。

・ Windows XPをお使いの場合	→ 次ページを参照してください。
・ Windows 2000をお使いの場合	→ 40ページを参照してください。
・ Windows Me/98をお使いの場合	→ 43ページを参照してください。

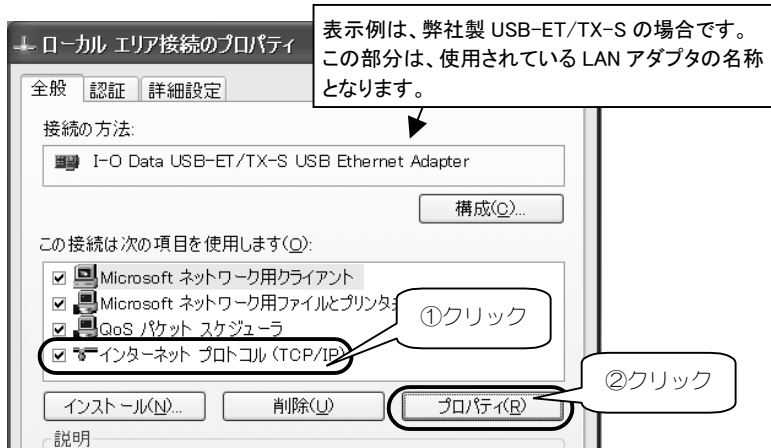
Windows XP

1 管理者権限でWindows XPにログオンします。

2 [スタートボタン]をクリックし、現れたスタートメニューの中にある[コントロール パネル]をクリックします。

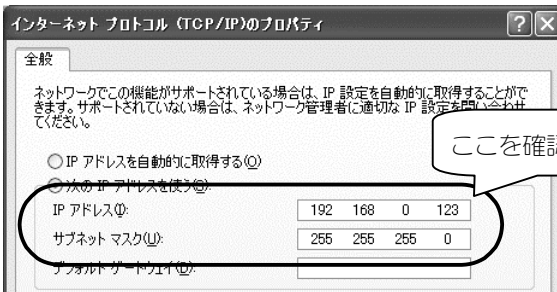
3 [ネットワークとインターネット接続]をクリックし、開いたウィンドウの中にある[ネットワーク接続]をクリックします。

4 [ローカルエリア接続]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

5 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

6 設定用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

設定用パソコンで本製品を設定するには、設定用パソコンのIPアドレスが下記を満たしている必要があります。

①が"192.168.0"である
（本製品のIPアドレスと同じクラスである）
②が"150"と異なる数である
（別のIPアドレスである）

本製品のIPアドレス
192.168.0 . 150
①　②
（出荷時）

「IP アドレスを自動的に取得する」に設定している場合

別のクラスの IP アドレス（「172. xxx. xxx. xxx」など）

本製品と同じ IP アドレス（「192. 168. 0. 150」）に設定している場合

→ 一時的に、パソコンの IP アドレスを「192.168.0.123」などの同じクラスで、かつ、別の IP アドレスに変更し［OK］ボタンをクリック後、すべての画面を閉じてパソコンを一度、再起動してください。

※パソコンのこの設定は、一時的な設定です。本製品のすべての設定が終了した後に、ご利用環境に合わせて再度設定し直してください。

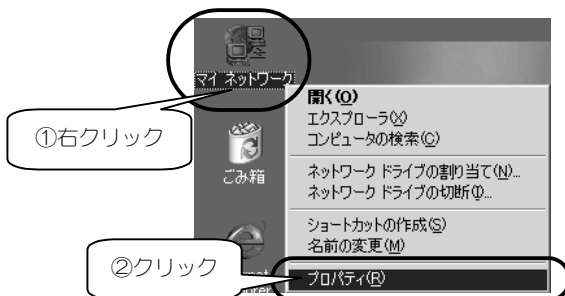
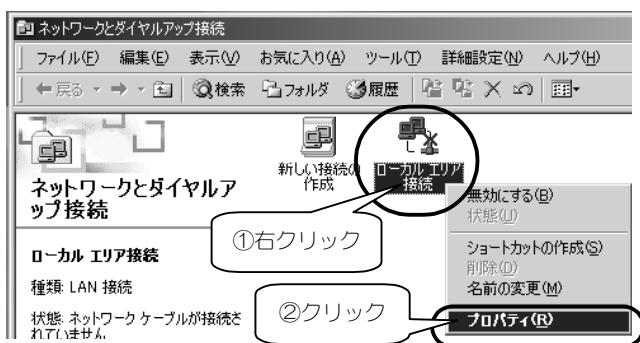
参考

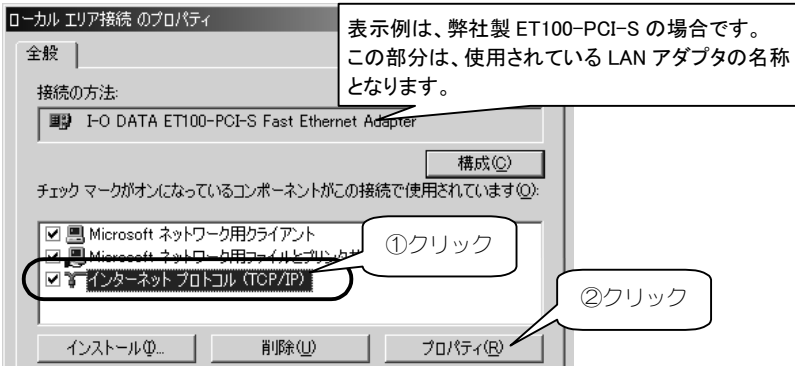
IP アドレス、クラスに関しては、【TCP/IP の基礎知識】(137 ページ)を参照してください。

確認・設定後、【3. Webブラウザの接続設定をする】(45ページ)へお進みください。

Windows 2000

1 Administrator権限でWindows 2000にログオンします。

2 [マイ ネットワーク]を右クリックし、
メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

3 [ローカルエリア接続]を右クリックし、メニュー内の
[プロパティ]をクリックします。

[ローカルエリア接続]が表示されない場合は、LAN アダプタの設定が正しく行われていません。ご使用の LAN アダプタメーカーへお問い合わせください。

4 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

参考

上記の表示以外に[NetBEUI プロトコル]など他のクライアントやプロトコルおよびサービスなどが表示されていても問題ありません。

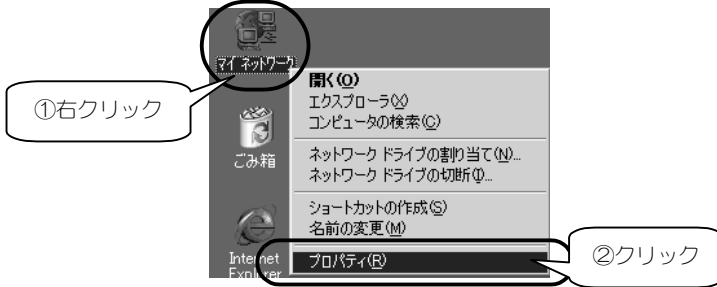
5 設定用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

設定用パソコンで本製品を設定するには、設定用パソコンのIPアドレスが下記を満たしている必要があります。

IP アドレス、クラスに関しては、【TCP/IP の基礎知識】（137 ページ）を参照してください。

確認・設定後、【3. Webブラウザの接続設定をする】(45ページ)へお進みください。

Windows Me/98

1 [マイ ネットワーク]*(または[ネットワークコンピュータ])*を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。

2 [TCP/IP]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

※アダプタが複数ある場合は、[TCP/IPー>xxxxxxxx]をダブルクリックします。(xxxxxxxxはLANアダプタのデバイス名の名称です。)

上記の表示以外に[NetBEUI]など他のクライアントやプロトコルおよびサービスなどが表示されていても問題ありません。

3 設定用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

IP アドレス、クラスに関しては、【TCP/IP の基礎知識】（137 ページ）を参照してください。

4 ［OK］ボタンをクリック後、パソコンを一度再起動します。

確認・設定後、【3. Webブラウザの接続設定をする】（45ページ）へお進みください。

3. Webブラウザの接続設定をする

本製品を設定するには、Web ブラウザ（Internet Explorer）の接続設定をしておく必要があります。

※インターネットに接続しない場合にも設定する必要があります。

下記を行います。

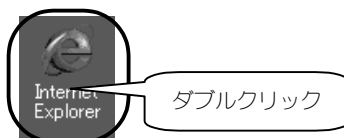
LANを使用してインターネットに接続する

1 [Internet Explorer]画面を表示させます。

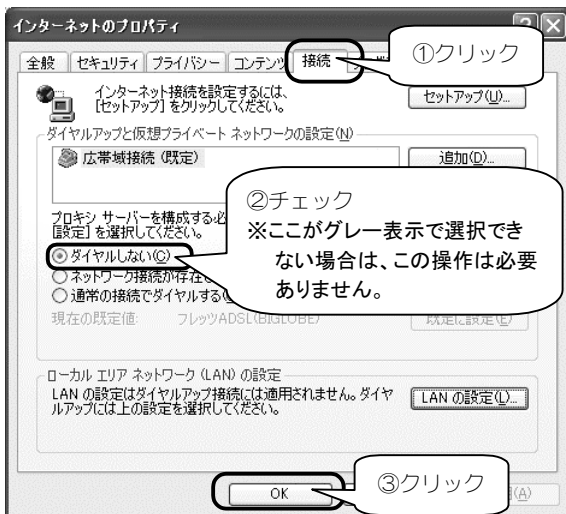
・Windows XPの場合

[スタート]→[すべてのプログラム]→[Internet Explorer]（または[インターネット Internet Explorer]）をクリックします。

・Windows 2000、Windows Me/98/95、Windows NT 4.0の場合

デスクトップ画面上の[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックします。

この時点でインターネットに接続されていない場合は、「ページを表示できません」など正常に画面が表示されませんが、ここでは Internet Explorer 自体の設定を行うため、この時点で正常に画面が表示されていなくても問題ありません。

2 [Internet Explorer]画面の
[ツール]メニューの[インターネット オプション]をクリックします。
※本手順以降、画面は[Internet Explorer 6.0]を例にしています。

3 [接続]タブをクリックし、[ダイヤルしない]をチェック後、[OK]ボタンをクリックします。

本設定は、本製品を設定するため(本製品に LAN 経由で接続するため)の設定です。本製品設定完了後は、設定を元に戻しておいてください。

以上で設定終了です。
次ページ【4. 本製品を設定する】へお進みください。

4. 本製品を設定する

設定画面を起動します。

設定画面は、Webブラウザから起動します。

1 Webブラウザを起動し、以下を開きます。

http://192.168.0.150

・Web ブラウザは、InternetExplorer 5.5 以降が必要です。バージョンをご確認ください。
なお、本製品に Web ブラウザは添付しておりません。
Web ブラウザがない、あるいは Web ブラウザのバージョンが古い場合は、正常に設定できませんので、必要なバージョン以降をご用意ください。

・上記 IP アドレスは、本製品内部にある設定画面を呼び出す IP アドレスです。
パソコンに LAN ケーブルで本製品が接続されていれば(インターネットに接続されていなくても)呼び出すことができます。

上記画面で入力するアドレス値は、本製品の IP アドレスです。
(画面例は、本製品出荷時の IP アドレス 192.168.0.150 を入力している例です。)
本製品の IP アドレスを変更した場合は、変更した値を入力してください。

2 設定ページ画面(TOPページ)が表示されます。

設定画面が表示されない！

設定用パソコンの IP アドレスを確認してください。→【2. IP アドレスを設定する】(36 ページ)

Web ブラウザの設定を確認してください。
→【2. Web ブラウザの接続設定をする】(45 ページ)

本製品の設定に関して

前ページの設定ページ画面から各種設定を行います。
次ページでは、本製品の IP アドレスの設定手順について説明します。
以下の個所も必要に応じて参照してください。

項目	参照個所
基本的な設定手順	【基本的な設定手順】（次ページ）
ネットワーク構成に応じた設定例についての詳細	【4　ネットワークに導入する】（61 ページ）
CF メモリカードやビデオカメラを使って動画配信するための設定手順	【6　活用する】（93 ページ）
Web 設定の詳細	「サポートソフト」CD-ROM の［Manual］フォルダ内の「Web 設定詳細 PDF」ファイル

・内蔵 LAN 接続、PPPoE 接続、PPP 接続、および無線 LAN 接続で設定する IP アドレスは、必ずそれぞれ異なるサブネットに属する IP アドレスを設定してください。
同じサブネットに属する IP アドレスを、同時に異なる接続で使用すると、誤作動の原因となることがあります。

・IP アドレスの設定は、必ずネットワーク管理者の指示を受けてください。（慎重に行なってください。）
接続しているネットワークの体系と異なる IP アドレスの使用や、既に使われている IP アドレスの使用は、ネットワークに重大な傷害を引き起こす可能性があります。既設のネットワークへ本体を接続する場合、IP アドレスの設定には十分注意してください。
詳細は「サポートソフト」CD-ROM の［Manual］フォルダ内の「Web 設定詳細 PDF」ファイルを参照してください。

基本的な設定手順 ･････ *IPアドレスの設定例*

ここでは、設定画面から本製品の IP アドレスの設定手順について説明します。

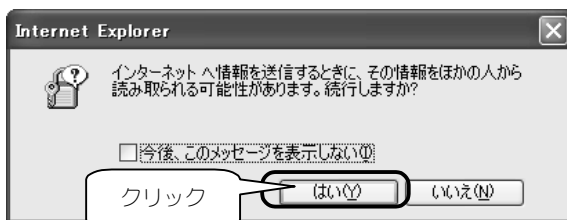
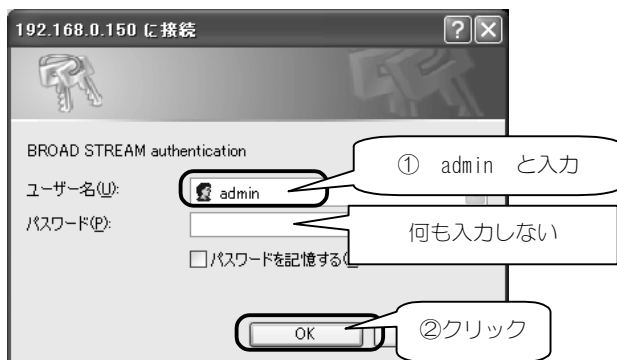
Web 設定画面から IP アドレスの設定ができますが、添付 CD-ROM 内の[IP アドレス設定ユーティリティ]でも IP アドレスを設定することができます。
詳細については、「サポートソフト」CD-ROM の[Manual]フォルダ内の「IP アドレス設定ユーティリティ.PDF」ファイルを参照してください。

1 IPアドレスの設定を行います。
設定画面の[設定]ボタン→[ネットワーク設定]→[内蔵LAN設定]ボタンを順にクリックします。

①クリック

②クリック

③クリック

2 以下の画面が表示される場合があります。
内容を確認後、[はい]ボタンをクリックします。

3 以下を入力後、[OK]ボタンをクリックします。
ユーザー名:　admin　（半角小文字）
パスワード:　入力する必要はありません。
※パスワードを変更した場合は、変更したパスワードを入力します。

上記のユーザー認証画面は、工場出荷初期設定では、あらかじめ Web 設定画面の【設定】画面と【機器情報】画面を表示させる際に、表示されるように設定されていますが、一度どちらかの画面でユーザー認証されますと、Web ブラウザを閉じない限りは、ユーザー認証画面が保持されます。

［内蔵LAN設定］画面で本製品のIPアドレスの設定を行います。

※各設定項目については次ページ参照

※本製品を導入するネットワークに応じた設定値については、【4　ネットワークに導入する】(61ページ)も参照してください。

BROAD STREAM - TSR-MS4 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F)　編集(E)　表示(V)　お気に入り(A)　ツール(T)　ヘルプ(H)

アドレス(D)　http://192.168.0.150

I·O DATA
MPEG-4 NETWORK VIDEO SERVER
BROAD STREAM
TSR-MS4
設定メニュー

はじめに…
リアルタイム動画
メモリカード動画
静止画
設定
動画設定
静止画設定
入力設定
ネットワーク設定
共通設定
内蔵LAN設定
PPP設定
無線LAN設定
PPPoE設定

設定

ネットワーク設定
内蔵LAN設定
内蔵されている10BASE-Tインターフェイスに関する設定を行います

IPアドレス

◉ 固定IPアドレスを指定する

IPアドレス　192.168.0.150

サブネットマスク　255.255.255.0

○ DHCPクライアント機能を使用する

☐ E-mailによる通知

☐ FTPによる通知

デフォルトゲートウェイ

DNSサーバー

DNSプライマリー

DNSセカンダリー

設定　ヘルプ

javascript:helpWin('../help.htm#LAN')　インターネット

■IPアドレス設定項目

設定項目	設定内容
IPアドレス	
固定IPアドレスを指定する	・固定IPアドレスを指定する場合、プロバイダもしくはネットワーク管理者が指定するIPアドレスとサブネットマスクを設定してください。 ・ローカルなネットワーク環境で使用される場合は、ご使用になられるパソコンと同じクラスのIPアドレス(プライベートIPアドレス)を設定してください。 ・192.168.0.150のように3つのピリオド(.)で区切られた4つの数字(0～255)を設定してください。 ただし、0.0.0.0と255.255.255.255は使用できません。
DHCPクライアント機能を使用する※1	・DHCPサーバーにより、IPアドレスを自動取得する場合は、DHCPクライアント機能を有効に設定してください ・必要な場合はご契約プロバイダまたはネットワーク管理者からホスト名を入手し、入力してください。 ・自動更新されるIPアドレスをE-mailまたはFTPサーバー、もしくは両方に通知可能です※2。 自動更新されたIPアドレスの通知先の設定を行なってください。
デフォルトゲートウェイ	
・ゲートウェイを使用する場合は、設定してください。 ・接続するネットワーク(インターネット、イントラネット)に設定されたデフォルトゲートウェイのIPアドレスを指定します。 ・プロバイダもしくはネットワーク管理者の指示に従ってください。	
DNSサーバー	
・DNSサーバーを使用する場合は、設定してください。 ・メールサーバー(SMTPサーバー)、FTPサーバーをドメイン名で登録する場合は、DNSサーバーアドレスの設定が必要です。 ・接続するネットワーク(インターネット、イントラネット)に設定されたDNSサーバーのIPアドレスを指定します。プライマリーとセカンダリーの2つを設定できます。 プロバイダもしくはネットワーク管理者の指示に従ってください。	

※1 「DHCPクライアント機能を使用する」場合で、DHCPサーバーよりデフォルトゲートウェイ、DNSサーバーのIPアドレスを自動取得する場合は、設定する必要ありません。
一般的に、特に指定のない場合は、設定する必要はありません。
※2 動的なIPアドレス割り当ての場合、IPアドレスが自動更新される場合があります。
更新された本体の新しいIPアドレスを知る方法として、任意のE-mailアドレスへの自動通知、またはFTPサーバーへの自動通知、もしくはその両方が可能です。
※3 プロバイダもしくはネットワーク管理者から指定された場合は、設定してください。

・PPP 接続の場合、および、PPPoE 接続の場合は、デフォルトゲートウェイの設定はありません。
また、「DHCP クライアント機能を使用する」ではなく、「IP アドレスを自動割り当てにする」となっています。
・インターネット接続時は固定のグローバル IP アドレス取得の契約が必要となる場合があります。

・インターネット接続時に、ルーターを経由する場合

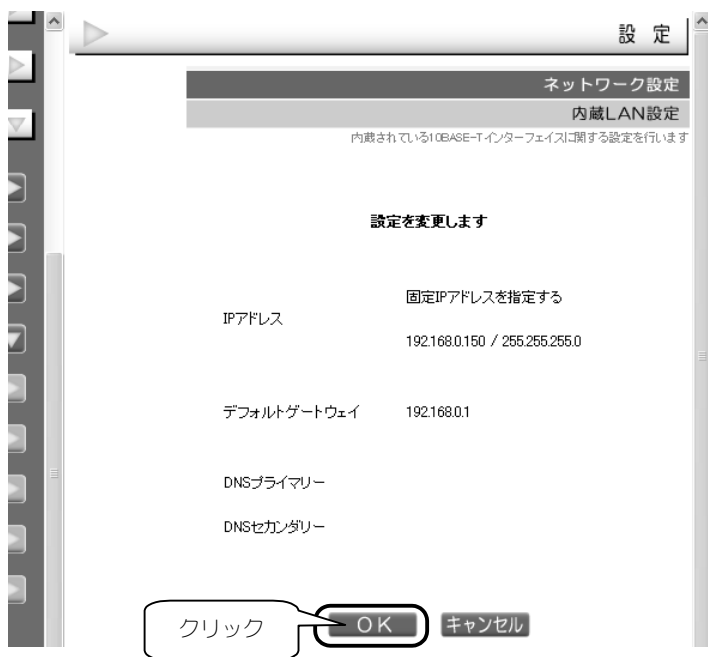
デフォルトゲートウェイには、プロバイダが指定するゲートウェイアドレスではなく、ルーターの LAN 側の IP アドレス（プライベート IP アドレス）を、デフォルトゲートウェイとして設定してください。
詳細は、お使いのルーターの取扱説明書をご覧ください。

・クラスについて

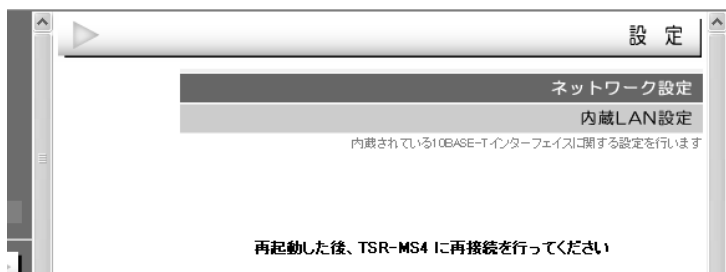
プライベート IP アドレスが、クラス A、クラス B、クラス C の 3 段階に分かれており、それぞれのクラスは、サブネットマスクの値により、プライベート IP アドレスが自由に設定できる範囲が決まっています。
ローカルなネットワーク環境に応じて、そのクラスの IP アドレスの範囲内で IP アドレスを設定してください。

クラス	サブネットマスク	プライベートIPアドレス
クラスA	255.　0.　0.　0	0.　0.　0.　1 ～ 10.255.255.254
クラスB	255.255.　0.　0	172. 16.　0.　1 ～ 172. 31.255.254
クラスC	255.255.255.　0	192.168.　0.　1 ～ 192.268.255.254

5 設定後、画面下の［設定］ボタンをクリックします。

6 ［OK］ボタンをクリックします。

7 [OK]ボタンをクリックします。

8 以下の画面となります。
設定が有効になるまで（[POWER]ランプのみが表示されるまで）
*約90秒ほど*お待ちください。

→本製品が内部で再起動を行っています。

上記の再起動とは、設定した内容を本製品に反映後、本製品内部で再起動（リスタート）を行う処理です。パソコン側の再起動とは無関係です。
再起動時には、本製品表面パネルの[POWER]ランプが緑に点灯したあと、起動中は[RUN]ランプと[MEMORY]ランプが2つとも同時に緑とオレンジの点滅を繰り返します。
再起動完了後、[POWER]ランプのみが緑に点灯します。

以上で本製品のIPアドレスの設定は終了です。

IP アドレスをパソコンとは別のクラスの IP アドレスに設定した場合

本製品とパソコンをクロスケーブルで直接接続して設定する場合に、本製品とパソコンが別のクラスの IP アドレスでは本製品の設定はできません。パソコン側の IP アドレスを本製品と同じクラスで、かつ、別の IP アドレスに設定してください。

ネットワーク導入後などに再度設定し直す場合で、以下の場合には次ページ【設定をやり直す場合】を参照してください。

・IP アドレスの設定を[DHCP クライアント機能を使用する]に設定した場合
・設定した IP アドレスがわからなくなった場合

5. 設定をやり直す場合

ネットワーク導入後などに本製品の設定をやり直す場合について説明します。

本製品を導入したネットワーク上から設定する場合

1. 設定用パソコンのWebブラウザの接続設定を行います。
   （【3. Webブラウザの接続設定をする】45ページ参照）

2. Webブラウザを起動し、本製品に設定したIPアドレスを開きます。
   ※設定したIPアドレスがわからない場合は次項【本製品に設定したIPアドレスがわからない場合】を参照してください。

3. 設定画面で必要な設定を行います。

本製品とパソコンのみで設定をやり直す場合

1. 設定用パソコンのWebブラウザの接続設定を行います。
   （【3. Webブラウザの接続設定をする】45ページ参照）

2. 設定用パソコンのIPアドレスを本製品のIPアドレスと同じクラスで、かつ、別のIPアドレスに設定します。
   （【2. IPアドレスを設定する】36ページ参照）
   ※設定したIPアドレスがわからない場合は次項【本製品に設定したIPアドレスがわからない場合】を参照してください。

3. Webブラウザを起動し、本製品に設定したIPアドレスを開きます。

4. 設定画面で必要な設定を行います。

本製品に設定したIPアドレスがわからない場合

本製品を設定するには、本製品に設定してある IP アドレスを知る必要があります。(出荷時:192.168.0.150)
本製品の IP アドレス設定を［**DHCP クライアント機能を使用する**］にした場合や設定した IP アドレスがわからなくなった場合などに、本製品の設定をやり直すには以下の方法があります。

方法①:添付の「IP アドレス設定ユーティリティ」で設定してある IP アドレスを確認する

「IP アドレス設定ユーティリティ」については、「サポートソフト」CD-ROM の［Manual］フォルダ内の「IP アドレス設定ユーティリティ.PDF」ファイルを参照してください。

方法②:本製品の設定をすべて初期設定に戻して、最初から設定する

本製品の設定をすべて出荷時設定に戻して、最初から行う方法です。
出荷時設定の戻し方については、【本製品を初期設定に戻す】(111 ページ)を参照してください。

本製品を［DHCP クライアント機能を使用する］に設定した場合や、動的 IP アドレス環境でご利用になる場合は、本製品の IP アドレス通知機能で本製品の IP アドレスを知ることができます。
詳細については、「サポートソフト」CD-ROM の［Manual］フォルダ内の「IP アドレス設定ユーティリティ.PDF」ファイルを参照してください。

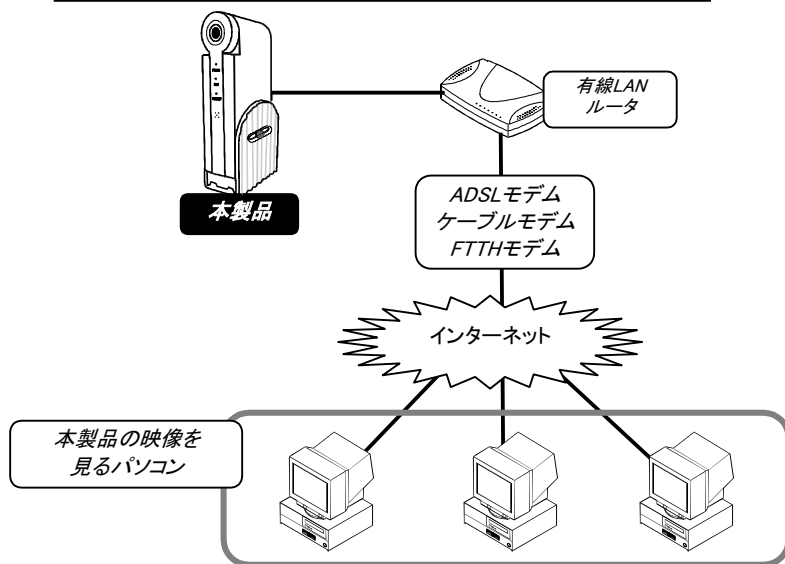
4 ネットワークに導入する

ネットワーク構成例

次ページ以降で、本製品のネットワーク構成例を示し、そのネットワーク構成に応じた、最低限必要な本製品の設定項目を説明します。

構成例①:インターネットを利用し、みんなで映像を見る例

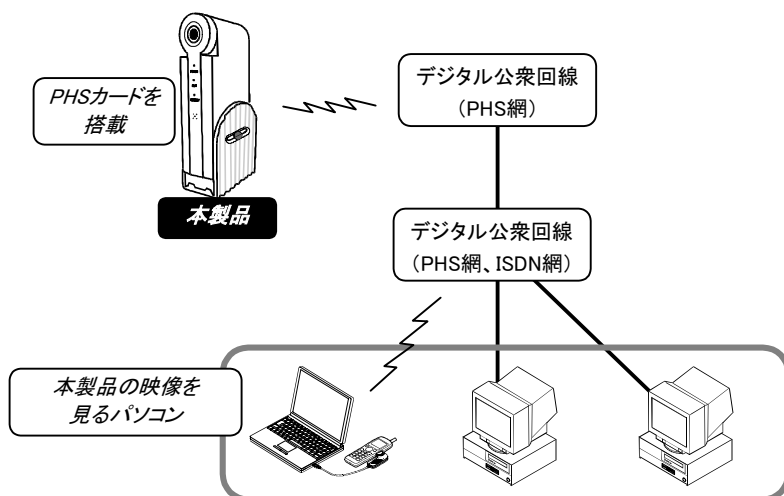
以下は、本製品に有線LANルータ経由でインターネットにネットワーク接続している例です。
インターネット経由でパソコンから本製品の映像を見ることができます。

設定手順の詳細　→　65ページへ

この場合、以下の設定が必要となります。

本製品の設定	IPアドレスの設定
有線LANルータの設定	本製品をバーチャルサーバ(仮想サーバ)にする設定
本製品の映像を見るパソコンの設定	本製品の映像を見る設定 詳細は、【映像を見る】(77ページ)参照

構成例②:電話回線(PHS)を利用し、みんなで映像を見る例

以下は、本製品にPHSカードを搭載し、デジタル公衆回線(PHS網)経由で本製品に接続している例です。
デジタル公衆回線(PHS網)経由でパソコンから本製品の映像を見ることができます。

設定手順の詳細 → 72ページへ

PHSカードを搭載
本製品
デジタル公衆回線(PHS網)
デジタル公衆回線(PHS網、ISDN網)
本製品の映像を見るパソコン

注意!

**・映像を見るパソコンには、PHS または ISDN 回線(デジタル)が必要です。
アナログ(モデム)では接続できません。**
**・同時に複数のパソコンから本製品に接続することはできません。
(本製品の PPP サーバ機能はダイヤルアップ[PPP 着信]を1つしか受けられないためです。)**

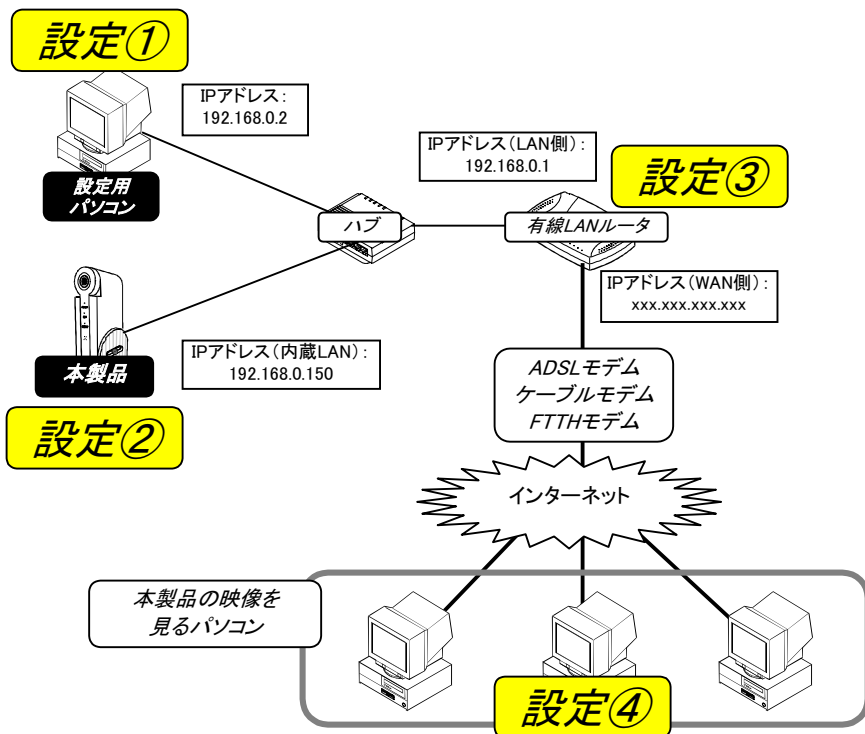
この場合、以下の設定が必要となります。

本製品の設定	PHSカードの取り付け、ダイヤルアップの設定 IPアドレスの設定
本製品の映像を見るパソコンの設定	本製品の映像を見る設定 詳細は、【映像を見る】(77ページ)参照

その他の構成での設定について

62～63ページ以外のネットワーク構成に本製品を導入する際の設定については、「Web設定詳細.PDF」ファイルや弊社ホームページを参照してください。

インターネットを利用し、みんなで映像を見る場合

以下は、本製品に有線LANルータ経由でインターネットにネットワーク接続している例です。
インターネット経由でパソコンから本製品の映像を見ることができます。

この場合、以下の順に設定が必要となります。
詳細は次ページ以降を参照してください。

設定①：設定用パソコンの設定　→　次ページ
設定②：本製品の設定　→　次ページ
設定③：ルータの設定　→　70ページ
設定④：映像を見るパソコンの設定　→　71ページ

設定①:設定用パソコンの設定

設定用パソコンを設定しておく必要があります。
設定の詳細は、【本製品を設定するパソコンの準備】（33ページ）を参照してください。

設定②:本製品の設定

本製品をネットワーク構成に応じた設定にする必要があります。

1 設定用パソコンで本製品のWeb設定画面を開きます。
(【本製品を設定する】47ページ参照)

2 ［設定］→［ネットワーク設定］→［内蔵LAN設定］を順にクリックし、本製品を接続しているアクセスポイント（ルータ）のLAN側のIPアドレスと同じセグメントに合わせ、［設定］ボタンで設定します。

BROAD STREAM - TSR-MS4 - Microsoft Internet Explorer

ネットワーク設定
内蔵LAN設定

IPアドレス
固定IPアドレスを指定する
IPアドレス 192.168.0.150
サブネットマスク 255.255.255.0

DHCPクライアント機能を使用する
E-mailによる通知
FTPによる通知

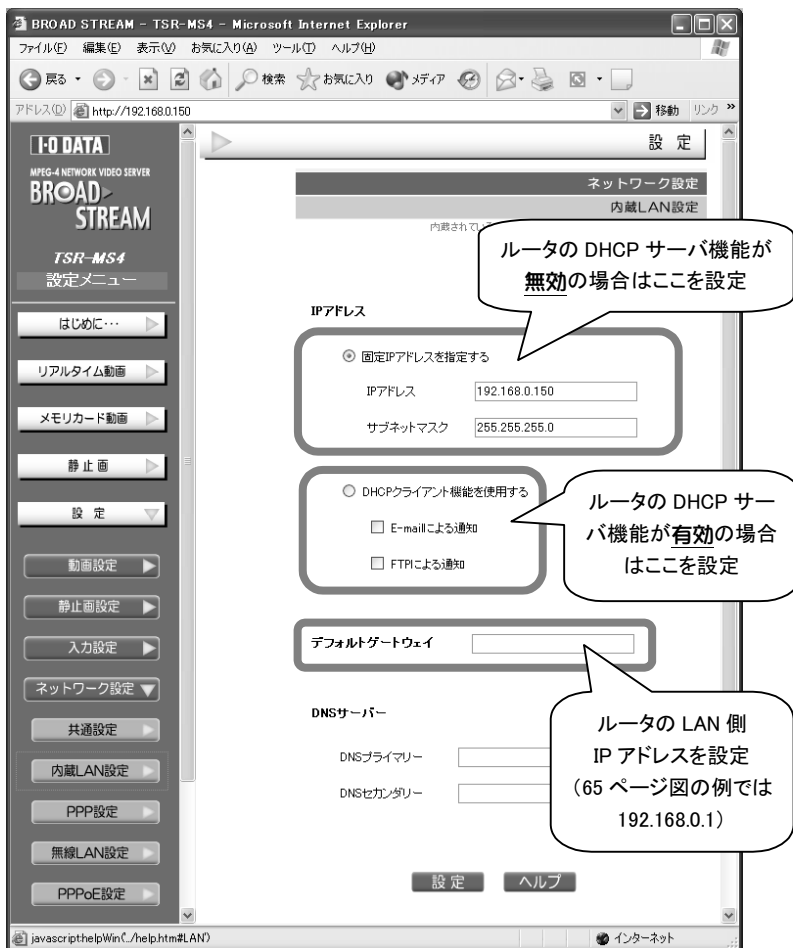
デフォルトゲートウェイ

DNSサーバー
DNSプライマリー
DNSセカンダリー

設定　ヘルプ

ルータの DHCP サーバ機能が**無効**の場合はここを設定

ルータの DHCP サーバ機能が**有効**の場合はここを設定

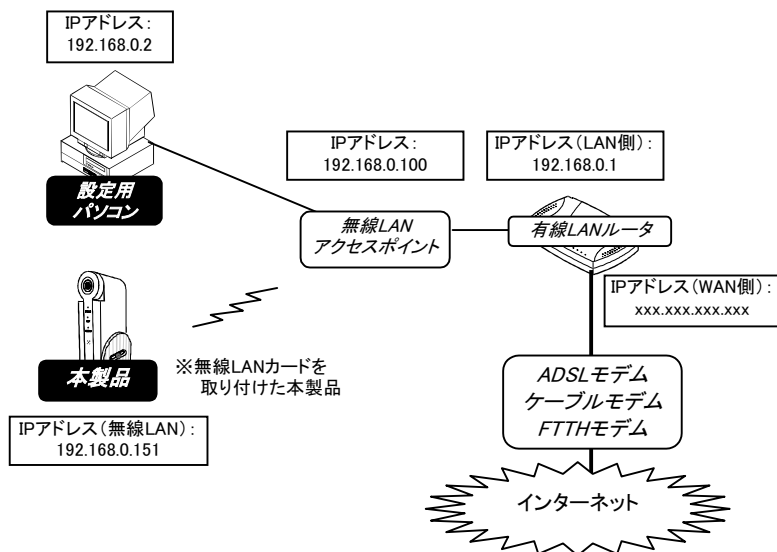
ルータの LAN 側 IP アドレスを設定（65 ページ図の例では 192.168.0.1）

ルータの DHCP サーバ機能が有効な場合は、本製品の DHCP クライアント機能が使用できます。その際、［デフォルトゲートウェイ］は自動設定されます。

以下は、無線 LAN アクセスポイントに接続する際の設定例です。（次ページ図参照）
無線 LAN アクセスポイントに接続する場合は、設定画面の[設定]→[ネットワーク設定]→[無線 LAN 設定]で、無線 LAN アクセスポイントと同じ[ESS-ID]と[WEP Key]を入力し、[設定]ボタンで設定します。
また、IP アドレスはルータの IP アドレスクラス内で、内蔵 LAN とは異なる IP アドレスに設定してください。
※[内蔵 LAN 設定]と[無線 LAN]設定を同時に DHCP クライアントに設定することはできません。

ルータの DHCP サーバ機能が無効の場合はここを設定
65 ページ図の例では、
192.168.0.151

ルータの DHCP サーバ機能が有効の場合はここを設定

無線 LAN アクセスポイントと同じ内容で設定

●無線LANアクセスポイント接続例

以上で本製品の設定は終了です。

設定③:ルータの設定

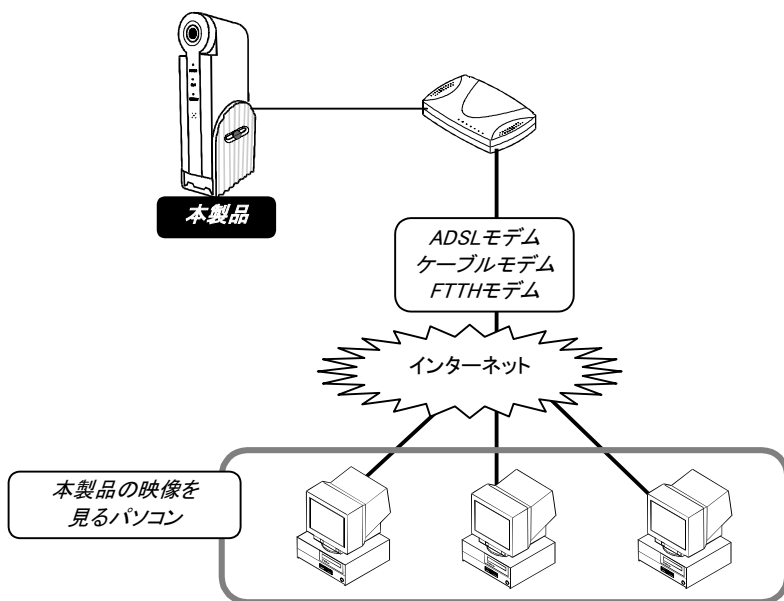
LAN接続した本製品の映像をインターネット上の他のパソコンから見るには、本製品をバーチャルサーバ（仮想サーバ）に設定しておく必要があります。
お使いのルータの取扱説明書で設定をご確認ください。
ここでは、弊社製ブロードバンドルータ「NP-BBRsx」での設定例について説明します。

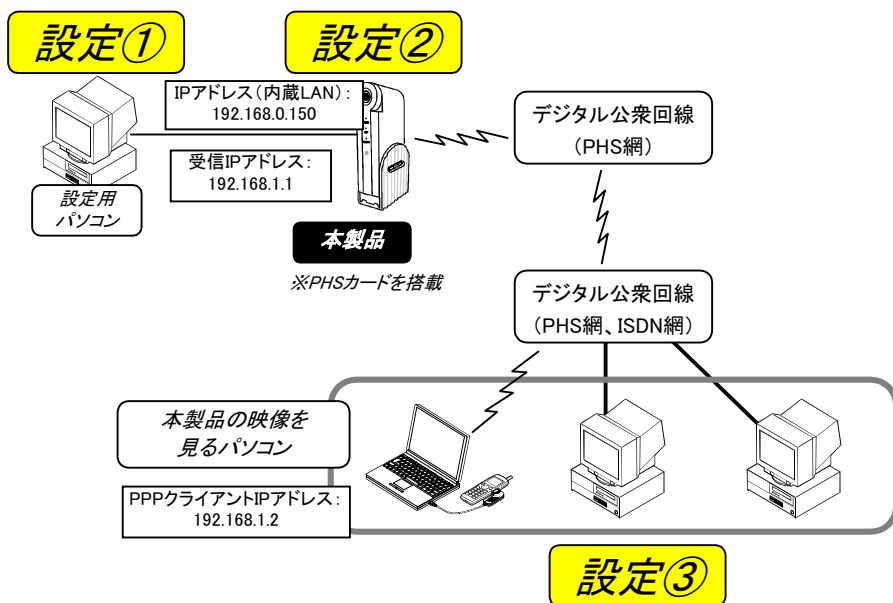
1 **ルータ設定画面を起動し、前ページ【設定②】で設定した本製品のIPアドレスをバーチャルサーバ*(仮想サーバ)*として登録します。**

以上でルータ(アクセスポイント)側の設定は終了です。

設定④:映像を見るパソコンの設定

映像を見るパソコンにもソフトウェアのインストールなどの設定が必要です。
設定の詳細は、【5　映像を見る】（77ページ）を参照してください。

本製品の待ち受けポート番号は"TCP80番ポート"のみです。
変更はできません。

デジタル公衆回線を使用したPHS接続でダイヤルアップ接続する場合

以下は、本製品にPHSカードを搭載し、デジタル電話回線（ISDN網、PHS網）経由でインターネットに接続している例です。
電話回線経由でパソコンから本製品の映像を見ることができます。

注意！

**・映像を見るパソコンには、PHS または ISDN 回線（デジタル）が必要です。
アナログ（モデム）では接続できません。**
**・同時に複数のパソコンから本製品に接続することはできません。
（本製品の PPP サーバ機能はダイヤルアップ[PPP 着信]を1つしか受けられないためです。）**

この場合、以下の設定が必要となります。
詳細は次ページ以降を参照してください。

設定①：設定用パソコンの設定　→　次ページ
設定②：本製品の設定　→　次ページ
設定③：映像を見るパソコンの設定　→　75ページ

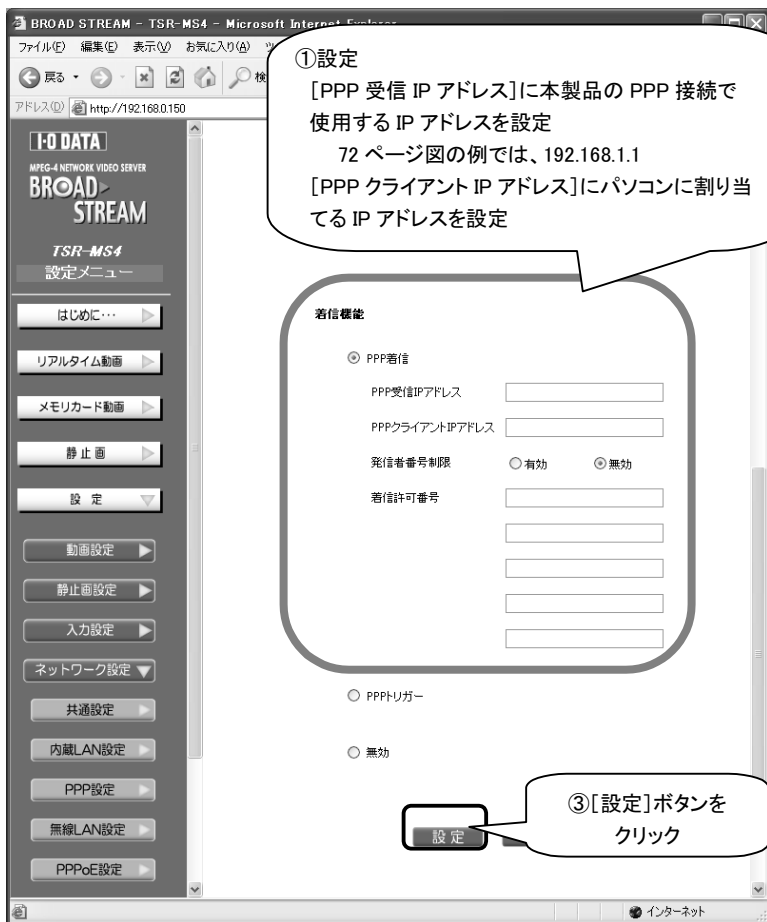
設定①:設定用パソコンの設定

設定用パソコンを設定しておく必要があります。
設定の詳細は、【本製品を設定するパソコンの準備】（33ページ）を参照してください。

設定②:本製品の設定

本製品をネットワーク構成に応じた設定にする必要があります。

1 設定用パソコンで本製品にネットワーク接続してWeb設定画面を開きます。
(【本製品を設定する】47ページ参照)

2 [設定]→[ネットワーク設定]→[PPP設定]を順にクリックし、[着信機能]でPPP着信を設定し、[設定]ボタンをクリックします。

以上で本製品の設定は終了です。

設定③：映像を見るパソコンの設定

映像を見るパソコンには以下の設定が必要です。

・ダイヤルアップの設定

設定の詳細は、お使いの携帯電話やPHSカードの取扱説明書を参照してください。

・映像の見るソフトウェアのインストール

設定の詳細は、【5　映像を見る】（77ページ）を参照してください。事前にインターネットに接続し、コーデックのインストールを行ってください。

参考

本製品の PPP トリガー機能を使用して以下のように使うことができます。

・本製品に電話すると、それをキッカケにその時の映像を CF メモリカードに動画記録させる

・携帯電話から本製品に電話すると、それをキッカケに本製品側からインターネットプロバイダにダイヤルアップし、PPP 接続でインターネットに接続し、トリガー設定に従って動作させる（FTP アップロード、メール送信）

詳細は、CD-ROM の[Manual]フォルダ内の「Web 設定詳細.PDF」ファイルを参照してください。

5 映像を見る

カメラの映像を見るには

本製品の映像を見るには、以下のパソコン環境が必要です。

項目	必要事項
ネットワークプロトコル	TCP/IPがインストールされ、適切にIPアドレスを設定している、もしくはDHCPサーバーから取得していること
Webブラウザ	Internet Explorer 5.5以降が必要
ソフトウェア	Windows Media Player 7.1以降が必要 → 次ページ【1. Media Playerをインストールする】参照
コーデックソフト	MPEG-4、G.726対応のコーデックソフト GSM-AMR対応のコーデックソフト → 80ページ【2. コーデックソフトをインストールする】参照
Webブラウザのセキュリティ設定	ActiveX、JavaScriptを有効に設定されていること → 85ページ【3. Webブラウザのセキュリティを設定する】参照

・インターネット経由で接続を行う場合、本体側の回線は閲覧時に接続されている必要があります。ISDN や ADSL 等では、設定により切断されている場合がありますので注意が必要です。

1.Media Playerをインストールする

本製品の映像を見るには、パソコンのMedia Player 7.1以降がインストールされている必要があります。
インストールされていない場合は、以下の手順でインストールしてください。

Windows XP をお使いの場合、および Windows Media Player 7.1 以降をお使いの場合は、インストールの必要はありません。次ページへお進みください。

1 添付のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

→ 自動的にメニュー画面が表示されます。

メニュー画面が表示されない場合は、[マイコンピュータ]→[CD-ROM]内の[Setup.exe]アイコンをダブルクリックしてください。

2 画面の「Windows Media(TM) Player 7.1のインストール」をクリックします。

後は、画面の指示に従ってインストールしてください。

2.コーデックソフトをインストールする

本製品の映像を見るには、パソコンに以下のコーデックソフトがインストールされている必要があります。

・MPEG-4、G.726対応のコーデックソフト
・GSM-AMR対応のコーデックソフト

Windows XP および Windows 2000 環境では、コーデックのダウンロード、インストールの作業は、コンピュータの管理者のアカウントおよび Administrator 権限で行なってください。

・MPEG-4、G.726 対応のコーデックソフトについて

本製品から配信される MPEG-4（動画圧縮）、G.726（音声圧縮）形式のデータを Windows Media Player で再生するには、これらに対応したコーデック（圧縮／伸張）ソフトが別途、必要となります。
あらかじめ、お使いのパソコンがインターネットに接続された環境で、本製品付属のセットアップ CD-ROM に入った“SAMPLE.ASF”ファイルを Windows Media Player で再生すると、自動的にコーデックはインストールされます。

・GSM-AMR 対応のコーデックソフトについて

本製品では、音声圧縮として GSM-AMR をサポートしておりますが、GSM-AMR 形式のデータを Windows Media Player 7.1 で再生するために必要なコーデックソフトは別途、インターネットからダウンロードし、インストールする必要があります。

MPEG-4、G.726対応のコーデックソフトのインストール

1 パソコンの以下の設定を確認します。

・インターネットに接続できていること

・Windows Media Player7.1以降がインストールされていること

2 添付のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

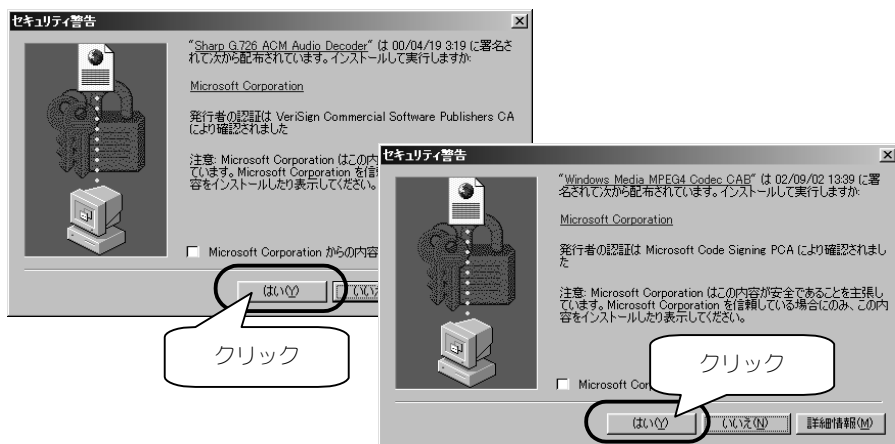
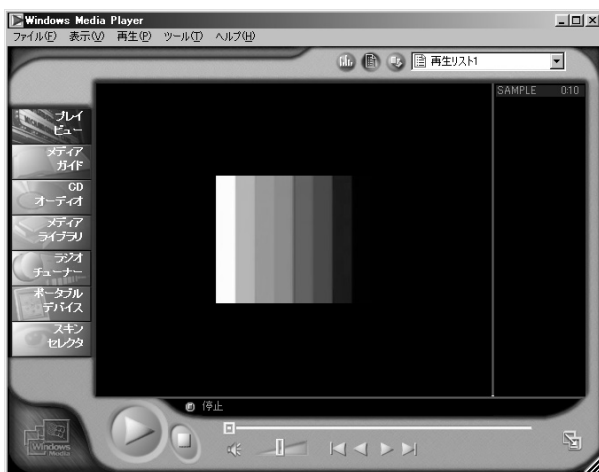
→ 自動的にメニュー画面が表示されます。

メニュー画面が表示されない場合は、[マイコンピュータ]→[CD-ROM]内の[Setup.exe]アイコンをダブルクリックしてください。

3 画面の[サンプル動画ファイルの再生]をクリックし、Windows Media Playerで再生します。

4 自動的にMicrosoft CorporationのWebサイトに接続され、必要なコーデックソフト※がダウンロードされ、インストールされます。

※MPEG-4、G.726形式のデータをWindows Media Player 7.1で再生するのに必要なコーデックソフト

5 以下の画面が表示された場合は、すべて[はい]ボタンをクリックします。

6 Media Playerで再生が行われます。

再生が終了すればインストールは終了です。

GSM-AMR対応のコーデックソフトのインストール

1 パソコンの以下の設定を確認します。

・インターネットに接続できていること

・Windows Media Player7.1がインストールされていること

2 添付のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

→ 自動的にメニュー画面が表示されます。

メニュー画面が表示されない場合は、[マイコンピュータ]→[CD-ROM]内の[Setup.exe]アイコンをダブルクリックしてください。

3 画面の[VoiceAge SPOTxDEウェブサイト]ボタンをクリックします。

VoiceAge Corporationのウェブサイトに接続します。

4 GSM-AMR対応のコーデックソフト（［SPOTxde™ Lite］）をインストールします。

※インストール方法につきましては、SPOTxDE Liteに付属のドキュメントをご参照ください。

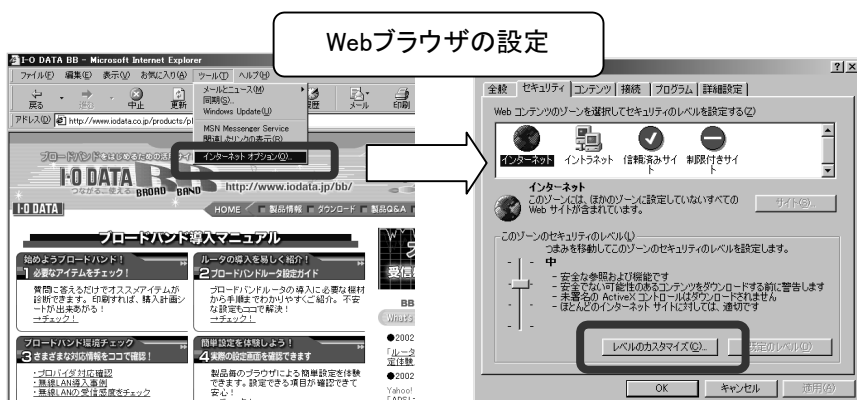
※［SPOTxde™ Lite］は、VoiceAge社提供の無料のWindows Media Playerに対応したデコーダプラグインです。

以上でインストールは終了です。

3.WEBブラウザのセキュリティを設定する

本製品の映像を見るには、パソコンのWEBブラウザのセキュリティを設定しておく必要があります。

ブラウザにおける JavaScript および ActiveX の設定について

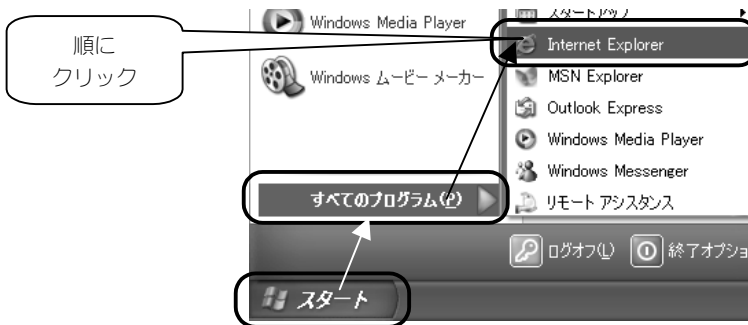
次ページ以降の手順で、これらを「有効」にすることで、Windows Media Player 7.1 と連動し、ブラウザだけでは不可能な動画表示機能を実現します。
ご使用になられるブラウザにおいて、「JavaScript」と「ActiveX」の 2 つの機能を以下の手順にしたがって、有効にしてください。

Web ブラウザは、InternetExplorer 5.5 以降が必要です。バージョンをご確認ください。なお、本製品に Web ブラウザは添付しておりません。
Web ブラウザがない、あるいは Web ブラウザのバージョンが古い場合は、正常に設定できませんので、必要なバージョン以降をご用意ください。

Internet Explorerの設定

プロバイダによっては、プロキシについての設定を指示している場合があります。まず、プロバイダから入手した資料をご用意ください。

1 [Internet Explorer]画面を表示させます。

・Windows XPの場合

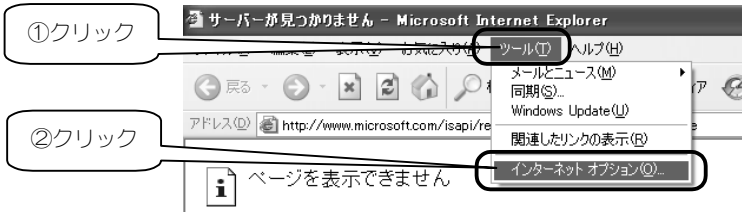
[スタート]→[すべてのプログラム]→[Internet Explorer](または[インターネット Internet Explorer])をクリックします。

・Windows 2000、Windows Me/98/95、Windows NT 4.0の場合

デスクトップ画面上の[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックします。

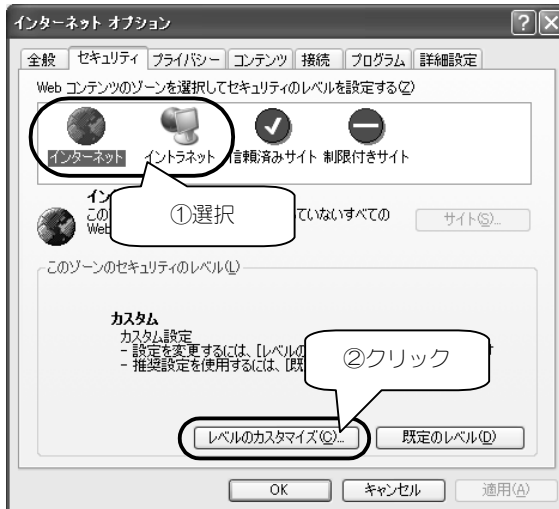
この時点でインターネットに接続されていない場合は、「ページを表示できません」など正常に画面が表示されませんが、ここでは Internet Explorer 自体の設定を行うため、この時点で正常に画面が表示されていなくても問題ありません。

Internet Explorerの設定(つづき)

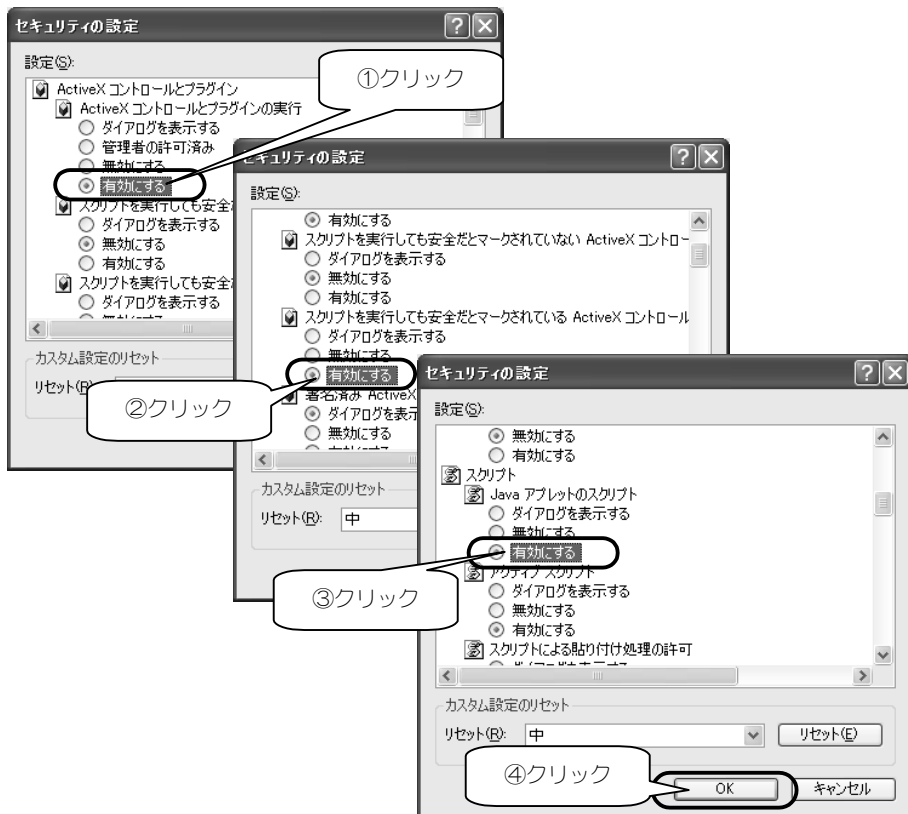
2 [Internet Explorer]画面の[ツール]メニューの[インターネット オプション]をクリックします。

※本手順以降、画面は[Internet Explorer 6.0]を例にしています。

3 メニューの中から[セキュリティ]をクリックし、お使いの環境に応じて以下を選択します。

インターネットに接続している環境　→[インターネット]
イントラネット環境　→[イントラネット]

選択後、[レベルのカスタマイズ]ボタンをクリックします。

Internet Explorerの設定(つづき)

4 次の①~③の項目を有効に設定し、[OK]ボタンをクリックします。

①「ActiveXコントロールとプラグインの実行」
②「スクリプトを実行しても安全だとマークされている…」
③「Javaアプレットのスクリプト」

5 [インターネットオプション](または[インターネットのオプション])画面へ戻りますので、[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

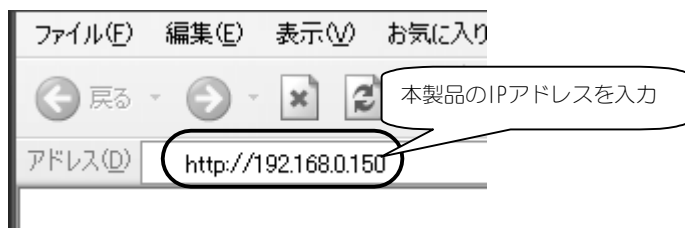
設定後、次ページへお進みください。

4. カメラの映像を見る

カメラの映像は本製品のWeb設定画面の[リアルタイム動画]で見ることができます。

1 Webブラウザを起動し、あらかじめ設定した本製品のIPアドレス

(出荷時の場合：192.168.0.150)

を入力し、[Enter]キーを押します。

●入力するIPアドレスについて

ご使用環境に応じて、以下のIPアドレスを入力してください。

LANでの使用(同一サブネットマスク内)の場合	[内蔵LAN設定](例：192.168.0.150)のIPアドレスを入力します。
インターネット側から直接接続する場合	[内蔵LAN設定]のグローバルIPアドレスを入力します。
インターネット側からルータを会して接続する場合	ルータのバーチャルサーバ設定を行った上で、ルータのグローバルIPアドレス、またはURLを入力します。 (弊社製NP-BBRsx等のDynamicDNSを使用すると固定のURLで接続できるので大変便利です。)
PHSダイヤルアップ接続の場合	PPP受信IPアドレスに設定したIPアドレスを入力します。

2 本製品の画面（TOPページ）が表示されます。

画面が表示されない！

パソコンの IP アドレスを確認してください。
→前ページ参照

Web ブラウザの設定を確認してください。
→【2. Web ブラウザのセキュリティを設定する】（85 ページ）

3 ［リアルタイム動画］ボタンをクリックします。
しばらくしてカメラの映像が表示されます。

項目	内容
［ウィンドウ起動］ボタン	表示されている映像をWindows Media Player単体で見ることができます。

Windows Media Player の仕様により、設定したビットレートにより4～7秒映像が遅延します。（Windows Media Player 側でストリーム映像をバッファリングするためです。）

6 活用する

CF(コンパクトフラッシュ)カードを使う

本製品の本体背面には、CF Type Ⅱ準拠カードスロットがあります。
このCFカードスロットにメモリーカード、PHSカード、無線LANカードを挿入することによって機能を追加することができます。

本製品に取り付けられるCFカード

現在本製品がサポートしているCFカードは以下のとおりです。

カード種別	製品名
フラッシュメモリカード	CFS シリーズ
無線 LAN カード *(IEEE 802.11b)*	WN-B11/CF
PHS カード	NTT ドコモ P-in m@ster
	DDI ポケット C@rd H" petit(CFE-01、CFE-01/TD)
マイクロドライブ	CFMD-1Gi

その他最新の対応 CF カードについては弊社ホームページ(http://www.iodata.jp/)をご確認ください。

CFカードのお取り扱いについて

・CFカードの抜き挿しは、CFカードの取扱説明書もお読みになった上で行なってください。
誤った操作をすると、データの消失や故障の原因となります。

・CFカードには表・裏・前・後の方向があります。本体のCFカードスロットは構造上、逆向きに挿入できないようになっていますので、無理に押し込んだりしないでください。
また、取り出すときは、必ずカード取出しボタンを押して取り出してください。
破損する恐れがあります。

・出荷時には、本製品のCFカードスロットにはCFダミーカードが挿入されています。
CFダミーカードを取り出してからお使いください。
※CFダミーカードでは[CF CARD]ランプは点灯しません。

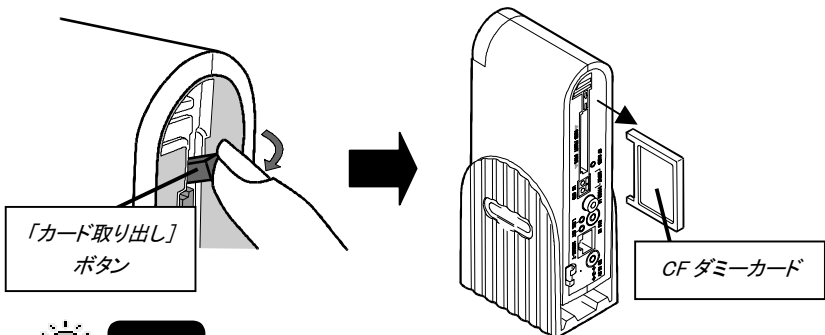
CFカードの挿入について

・弊社指定の CF カード以外はご使用にならないでください。その他の CF カードのご使用による直接、間接的損害におきまして、弊社は一切の責任を負いません。
・CF カードを挿入する際には、必ず CF カードの向き（表・裏・前・後）をご確認ください。

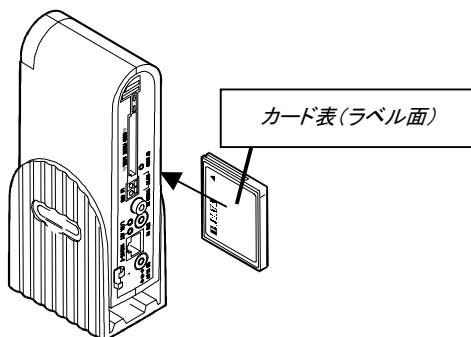
▼挿入手順

1 本製品の電源が入っていることを確認します。

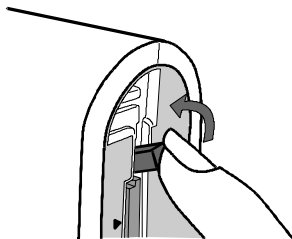
CF カードは本製品の電源が入っている状態で挿入・取り出しができます。
ただし、電源を入れたまま取り出す場合は、「CF カードのマウント解除」を行なった後で、取り出す必要があります。マウント解除の手順については、98 ページを参照してください。

2 お買い上げ時には、本製品の［CFカードスロット］には「CFダミーカード」が挿入されています。
［カード取出し］ボタンを引き出し、押して「CFダミーカード」を取り出します。（ダミーカードは捨てないで保管してください。）

注意！

CF カードスロットで CF カードを使用しない場合は、ダミーカードを元に戻して（挿入しておいて）ください。
CF カードスロットを空けたままにしておくと、ホコリや異物が入り、火災・感電・故障の原因となります。

3 ［CFカードスロット］にCFカードの表裏を確認して挿入します。（CFカードのラベル面を［CARD FRONT SIDE］側にして挿入します。）

4 CFカードを確実に挿入すると、［カード取出し］ボタンが少し出てきます。

※[CF CARD]ランプが緑色に点灯していれば、正しく挿入されています。

［カード取出し］ボタンを引きながら折りたたみ、元に戻します。

CF カード検出の確認方法

- 正常に認識したとき、「CF CARD」ランプが緑色に点灯します。
  認識されないといきは「CF CARD」ランプが点灯しません。
- 設定画面の［機器情報］でも CF カードが正しく挿入されているかを確認できます。
  詳細は、「Web 設定詳細.PDF」ファイルを参照してください。

- 認識されない場合は、まず本製品の電源を切断してから、CF カードが正しく装着されているかご確認いただいたうえで、再度本体の電源を投入してください。

CFカードの取り出しについて

CFカードの取り出し方法としては、以下の2つの方法があります。

取り出し方法①：本製品の電源を切ってから取り出す

取り出し方法②：マウント解除を行ってから取り出す（本製品の電源を切らずに取り出す）

・CF メモリーカードへのアクセス中に、CF メモリーカードを抜いたり、本体の電源を切らないでください。
CF メモリーカードを取り出す際には、必ず CF メモリーカードのマウント解除を行なってください。

・誤って本体の電源を切断すると、CF カードや CF カード内のデータが破損する原因となります。

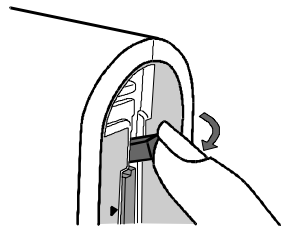
・CF カードスロットに CF カードを挿入しないときは、本体付属のコンパクトフラッシュダミーカードを挿入してください。
CF カードスロットにホコリや異物が入り、火災・感電・故障の原因となります。

・CF カードの種類によっては、カード取出しボタンを引き出せない場合があります。
その際は、CF カードのマウント解除を行なった後で、本体の電源を切ってから CF カードを真っ直ぐ引きぬいて取り出してください。

▼取り出し方法①；　本製品の電源を切ってから取り出す

1. CFカードを使用していない（CFメモリーカードの場合はアクセスしていない）ことを確認します。

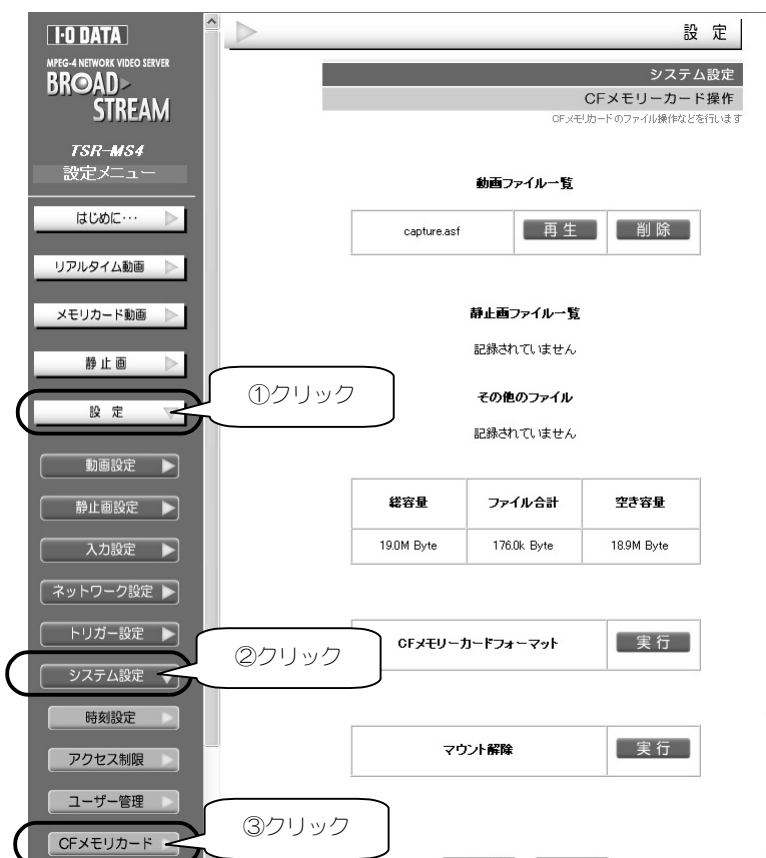
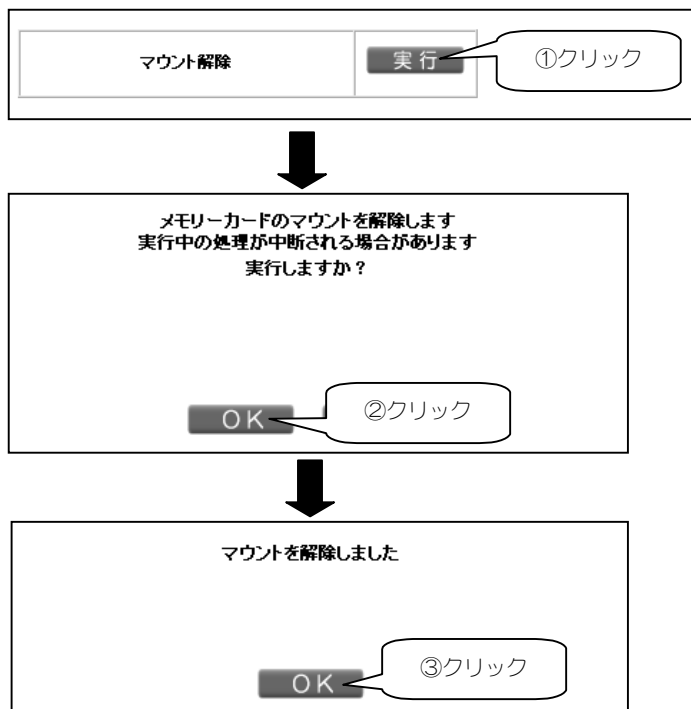
2. 電源ケーブルをコンセントから抜いて、本製品の電源を切ります。

3. ［カード取出し］ボタンを引き出し、押してCFカードを取り出します。

4. しばらくCFカードを使用しない場合は、CFダミーカードを挿入します。

▼取り出し方法②; マウント解除を行ってから取り出す

本製品の電源を切らずにCFカードを取り出すことができます。
ただし、以下のマウント解除（本製品の設定画面での作業）を行ってから取り出す必要があります。

1 CFカードを使用していない（CFメモリーカードの場合はアクセスしていない）ことを確認します。

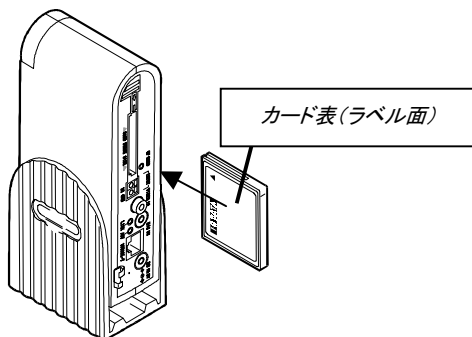
2 設定画面でマウント解除を行います。
設定画面で、[設定]→[システム設定]→[CFメモリカード]ボタンを順にクリックします。

3 ［マウント解除］の［実行］ボタンをクリックし、順に［OK］ボタンをクリックします。

CFメモリカードを使って動画配信する

ここでは、CFメモリカードを使った動画配信の手順について説明します。

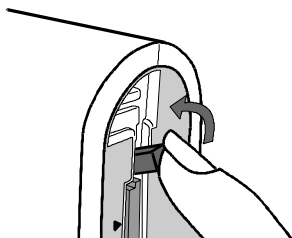
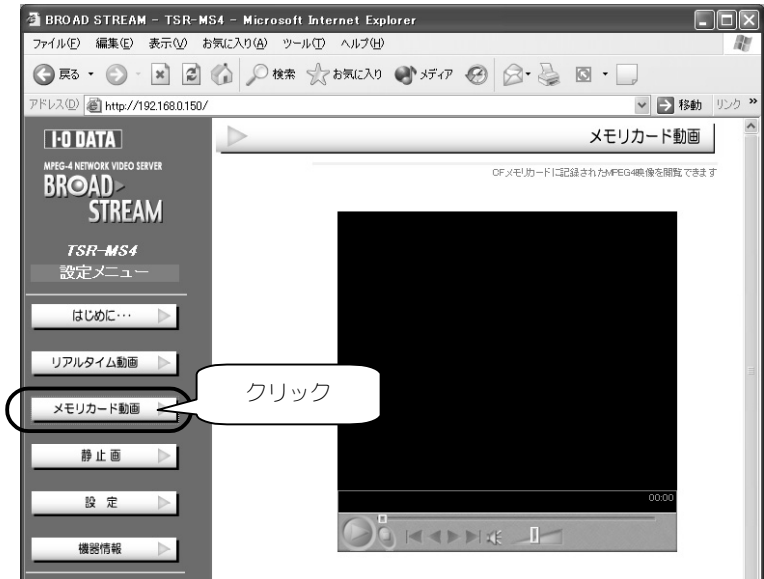
94ページ以降でCFカードの挿入、取り出し手順を確認しておいてください。

CFメモリカードに映像を録画する

CFメモリカードに配信する動画を録画します。

1 ［CFカードスロット］にCFカードの表裏を確認して挿入します。（CFカードのラベル面を［CARD FRONT SIDE］側にして挿入します。）

2 CFカードを確実に挿入すると、［カード取出し］ボタンが少し出てきます。

※[CF CARD]ランプが緑色に点灯していれば、正しく挿入されています。

［カード取出し］ボタンを引きながら折りたたみ、元に戻します。

3 本製品のWeb設定画面で[メモリカード動画]をクリックします。

4 [録画設定・操作]項目でCFメモリカードに録画するファイルの設定を行います。(次ページ参照)

録画設定・操作	
データレート	一秒間に配信される動画のデータ量を設定します。 *※データレートはネットワーク帯域以下に設定する必要があり、データレートがネットワーク帯域を上回る場合は、正常に配信されません。*
画質	動画データの圧縮率を設定します。圧縮率が低いほどデータ量が多く、高画質となります。 *高*:圧縮率が最も低く、一番高い画質です *中*:圧縮率、画質ともに中程度です。 *低*:圧縮率が最も高く、一番低い画質です。
解像度 (画像サイズ)	動画データの画素数を設定します。画素数が大きいほどデータ量が多くなります。 *CIF:352×288 ／ QCIF:176×144 ／ SQCIF:128×96* *※データレートを96kbps以下に設定している場合は、CIFサイズに設定することができません。*
音声	動画データに含まれている音声の圧縮率を設定します。 G.726:データ量が最も多いです *AMR(中)*:データ量が中程度です *AMR(低)*:データ量が最も低いです ※データレートを32kbpsに設定した場合、G.726に設定することはできません。 AMRは音声に特化しているため、音声以外の音質が悪くなります。
ファイル名	CFメモリカードに記録するファイル名を指定します。 すでにCFメモリカード内に同一ファイル名がある場合は上書きされます。
記録時間	[録画開始]ボタンクリック後からの記録時間を時・分・秒で指定します。 すべて0(ゼロ)を入力すると、CFカードの容量に空きがあるまで、録画を行います。 CFカードに空きがなくなると自動的に録画を終了します。(終了した時点までの映像がCFカードに記録されます。)
[録画開始]ボタン	表示されている映像をCFメモリカードに録画します。
[停止]ボタン	録画を停止します。
[ステータス表示]ボタン	録画状態を示すウィンドウを表示します。
[CFメモリカード]ボタン	CFメモリカードに録画されている映像の表示その他の操作を行うことができます。
[ヘルプ]ボタン	ヘルプ画面を表示します。

CF メモリカードに記録された動画ファイル（ASF）は、本製品の仕様によりインデックス情報を付与していないため、動画ファイルの編集を行うことはできません。
編集目的の場合は、モニタリングユーティリティでパソコンに保存してください。
モニタリングユーティリティについては、［モニタリングユーティリティ.PDF］ファイルを参照してください。

・CFメモリカードに記録を行う設定を選択された場合、CFメモリカードの記録容量に制限がありますので、データレート、記録時間の選択には、十分ご注意ください。
記録容量の計算式
データレート【kbps】 ÷ 8 × 記録時間【秒】 ＝ 記録容量【kbyte】
上式で算出された記録容量がCFメモリカードのサイズを超える場合、正常に設定および記録されません。
・各データレートの最大記録時間例(CFメモリカード)
384【kbps】 ÷ 8 × 83【秒】 ＝ 3984【kbyte】
256【kbps】 ÷ 8 × 125【秒】 ＝ 4000【kbyte】
192【kbps】 ÷ 8 × 166【秒】 ＝ 3984【kbyte】
144【kbps】 ÷ 8 × 222【秒】 ＝ 3996【kbyte】
128【kbps】 ÷ 8 × 250【秒】 ＝ 4000【kbyte】
96【kbps】 ÷ 8 × 333【秒】 ＝ 3996【kbyte】
64【kbps】 ÷ 8 × 500【秒】 ＝ 4000【kbyte】
32【kbps】 ÷ 8 × 1000【秒】 ＝ 4000【kbyte】

5 設定後、画面下の［録画開始］ボタンをクリックします。

6 ［OK］ボタンをクリックします。

8 再度、[メモリカード動画]ボタンをクリックします。
[動画ファイル一覧]に録画したファイルが表示されます。

録画したCFメモリカードの映像を見る

CFメモリカードに録画した映像を見てみましょう。

1 本製品のWeb設定画面で[メモリカード動画]をクリックし、[動画ファイル一覧]の録画ファイルの[再生]ボタンをクリックします。

2 録画した映像が表示されます。

●ボタン操作について

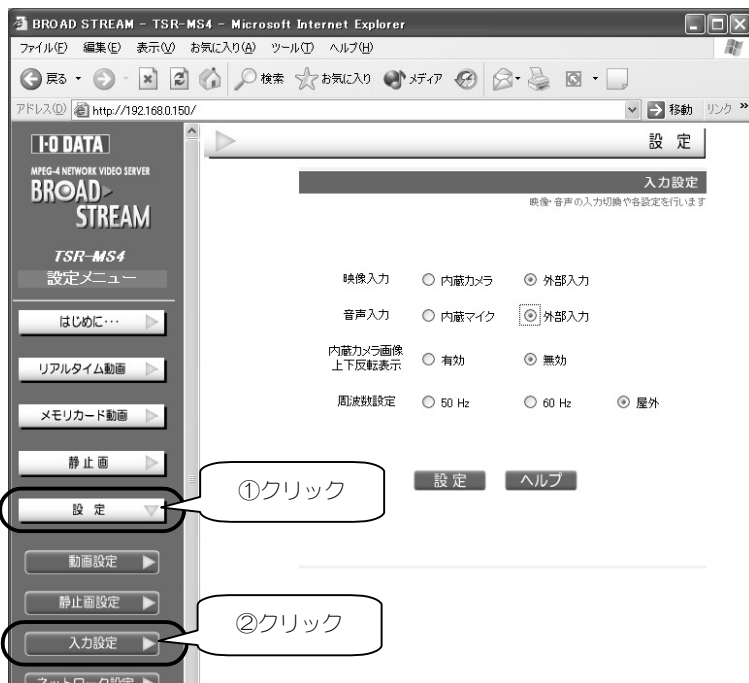
(再生)	動画再生を開始します。 再生中は (一時停止)ボタンとなります。
(停止)	再生中の動画を停止します。
(前へ)	ご使用になれません。
(巻き戻し)	ご使用になれません。
(早送り)	ご使用になれません。
(次へ)	ご使用になれません。
(ミュート)	音を消します。
(音量)	音量を調整します。

CF メモリカードに記録された動画ファイル(ASF)は、本製品の仕様によりインデックス情報を付与していないため、動画ファイルの編集を行うことはできません。
編集目的の場合は、モニタリングユーティリティでパソコンに保存してください。
モニタリングユーティリティについては、[モニタリングユーティリティ.PDF]ファイルを参照してください。

ビデオカメラの映像を動画配信する

ここでは、本製品にビデオカメラを接続してビデオカメラの映像を動画配信する手順について説明します。

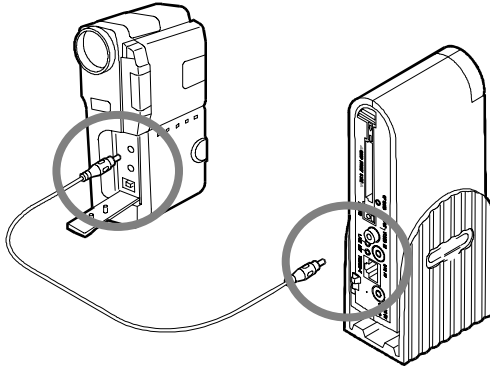
ビデオカメラを準備する

1 本製品のWeb設定画面で[設定]→[入力設定]を順にクリックします。

2 [映像入力]、[音声入力]を[外部入力]に切り替え、[設定]ボタンをクリックします。

映像入力	映像入力機器の切り換えを行ないます。 *内蔵カメラ:* 本体内蔵のCIFサイズ対応CMOSセンサーカメラモジュールを使用する。 *外部入力:* 外部映像入力端子に接続したビデオカメラ等を使用する。
音声入力	音声入力機器の切り換えを行ないます。 *内蔵マイク:* 内蔵のモノラルマイクモジュールを使用する。 *外部入力:* 外部マイク入力端子に接続したモノラルマイクや音響機器を使用する。 *※外部マイク入力端子に一般のオーディオ機器(LINE-OUT)を接続する場合は、市販の抵抗入りと書かれた接続ケーブルをご使用ください。抵抗なしのケーブルで直接つなぎますと、インピーダンスが合わないため、正常な音声入力が行えず、本製品にダメージを与える恐れがあります。* *[動作確認済の抵抗入り接続コード]* *ソニー(株)製* *・接続コード ミニプラグ<->ステレオミニプラグ(抵抗入り)/RK-G135* *・接続コード ピンプラグL・R<->ミニプラグ(抵抗入り)/RK-G115* *※詳細は、販売店にお問い合わせください。*
内部カメラ 上下反転表示	内蔵CMOSカメラの映像の上下反転を行ないます。 *有効:* 上下反転する。 *無効:* 上下反転しない。
周波数設定	内蔵カメラが電源周波数に影響され画像がちらつくのを防ぐための設定です。 *50Hz:*電源周波数50Hz地域の屋内で使用する場合。 *60Hz:*電源周波数60Hz地域の屋内で使用する場合。 *屋外:*屋外を撮影する場合。 50Hz、60Hzの設定では、高照度環境では映像が白飛びする可能性があります。また、屋外を撮影する場合は必ず屋外に設定してください。

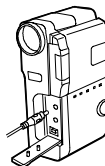
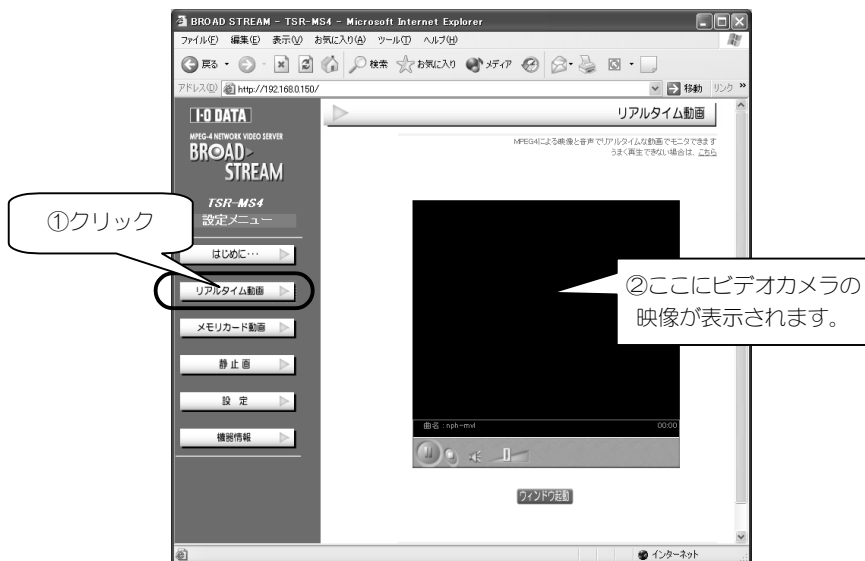
3 本製品にビデオカメラや音声出力機器を接続します。
※本製品の電源が入った状態で接続できます。
※本製品にはビデオケーブルや音声ケーブルは添付しておりません。
カメラに付属あるいは市販のケーブルをご使用ください。

ビデオ入力端子接続例

ビデオケーブルで、本製品の[ビデオ入力端子]とビデオカメラのビデオ出力端子を接続します。

これで準備ができました。

ビデオカメラの映像を見る

ビデオカメラの映像を見てみましょう。

1 ビデオカメラの電源を入れ、
映像が見られる状態にします。

2 本製品のWeb設定画面で[リアルタイム動画]ボタンをクリックします。
しばらくしてビデオカメラの映像が表示されます。

項目	内容
[ウィンドウ起動]ボタン	表示されている映像をWindows Media Player単体で見ることができます。

注意！

Windows Media Player の仕様により、設定したビットレートにより4～7秒映像が遅延します。（Windows Media Player 側でストリーム映像をバッファリングするためです。）

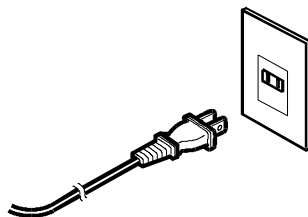
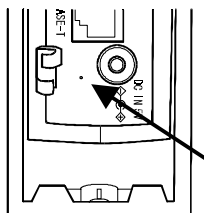
本製品を初期設定に戻す

本製品前面の[Reset]ボタンで本製品を初期設定に戻す手順について説明します。

以下の手順を行うと、変更した設定内容は、すべて初期設定（出荷時設定）となります。設定画面で最初からすべて設定し直してください。

1. 本製品を使っていないことを確認します。

2. 本製品からLANケーブルを取り外し、本製品の電源ケーブルをコンセントから取り外します。

3. 本製品前面の[全初期化ボタン]の穴に、クリップ等の先の細いもので内部のボタンを押しながら、電源ケーブルをコンセントに接続し、本製品の電源を入れます。

4. クリップを放します。

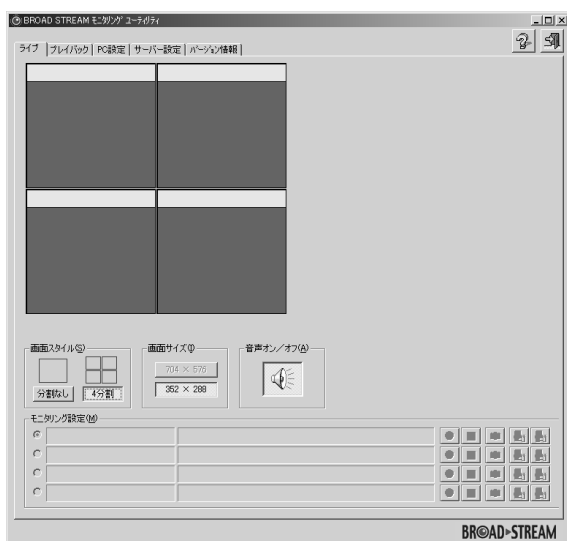
5. 初期設定され、約70秒後に起動します。

以上で本製品を初期設定に戻す設定は終了です。
再度最初から本製品を設定し直してください。

本製品を複数台ご利用になる場合

ネットワーク上などで本製品を複数台ご利用になる場合は、添付ユーティリティ「モニタリングユーティリティ」をお使いになると、最大4台までの本製品の映像を同時に見ることができるため、管理を簡単に行うことができます。

「モニタリングユーティリティ」の詳細は「サポートソフト」CD-ROMの［Manual］フォルダ内の「モニタリングユーティリティ.PDF」ファイルをご覧ください。

＜モニタリングユーティリティ＞

その他の各種設定について

設定メニューから本製品の各種設定ができます。

Web 設定画面の詳細については、添付の CD-ROM 内の[Manual]フォルダ内の「Web 設定詳細.PDF」ファイルを参照してください。

BROAD STREAM - TSR-MS4 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 お気に入り メディア

アドレス(D) http://192.168.0.150 移動 リンク

I·O DATA

MPEG-4 NETWORK VIDEO SERVER

BROAD STREAM

TSR-MS4

設定メニュー

はじめに･･･

リアルタイム動画

メモリカード動画

静止画

設 定

機器情報

ページが表示されました

はじめに･･･

MPEG-4 NETWORK VIDEO

BROAD STR

TSR-MS4

[設定]メニュー

設 定

動画設定

静止画設定

入力設定

ネットワーク設定

トリガー設定

システム設定

[ネットワーク設定]メニュー

ネットワーク設定

共通設定

内蔵LAN設定

PPP設定

無線LAN設定

PPPoE設定

[システム設定]メニュー

システム設定

時刻設定

アクセス制限

ユーザー管理

CFメモリカード

再起動

●TOPページメニュー項目

[TOP]メニュー項目	詳細
はじめに	トップページに戻ります。トップページ以外でこのボタンをクリックした場合、このページに戻ることができます。（次ページ参照）
リアルタイム動画	本製品からのリアルタイム配信を閲覧できます。
メモリカード動画	本製品の背面パネルのCFカードスロットに装着したCFメモリーカードの動画ファイルの閲覧（再生）、およびCFメモリーカードへ本製品の映像を録画できます。
静止画	本製品からのリアルタイム映像を、静止画として表示します。また、本製品に装着されたCFメモリーカード内に記録されている静止画ファイルの表示を行ないます。
設定	本製品の各種設定を行ないます。
機器情報	本製品のシステム設定情報を確認できます。本製品の設定情報、および現在発生している異常情報を表示します。

●[設定]メニュー項目

[設定]サブメニュー項目	詳細
動画設定	動画に関する設定を行います。
入力設定	カメラ、マイク、外部入力の設定を行います。
ネットワーク設定	ネットワークに関する設定を行います。 （さらにサブメニューがあります。）
トリガー設定	外部トリガーの動作設定を行います。 *※外部トリガー入力端子については、サポート対象外とさせていただきます。*
システム設定	本体の設定、アクセス制限、ユーザー登録等の設定を行います。 （さらにサブメニューがあります。）

●[ネットワーク設定]メニュー項目

[ネットワーク設定] サブメニュー項目	設定内容	他設定との併用
共通設定	ネットワーク関係で全体に関わる共通部分の設定を行ないます。	全てのネットワーク設定に共通する設定項目です。すべてのネットワーク設定に有効です。
内蔵LAN設定	本製品に内蔵されている10BASE-Tインターフェイスについての設定を行ないます。	・内蔵LAN接続を使用する場合に設定します。 ・PPPoE接続との併用はできません。 ・無線LAN接続が設定されていて、無線LANカードが搭載されている場合は、無線LAN接続が優先されます。 PPP接続との併用は可能です。
PPP設定	CFカードスロットに装着するPHSカードに関する設定を行ないます。	内蔵LAN接続との併用は可能です。ただし、内蔵LANとは異なるネットワークのIPアドレスを指定してください。
無線LAN設定	CFカードスロットに装着するIEEE802.11b無線LANカードに関する設定を行ないます。	無線LAN接続のみの設定となります。ただし、内蔵LANとは異なるネットワークのIPアドレスを指定してください。
PPPoE設定	PPPoEにて接続する場合の設定を行ないます。	PPPoE接続のみの設定となります。

●[システム設定]メニュー項目

[システム設定] サブメニュー項目	設定内容
時刻設定	本製品の時刻を設定することができます。
アクセス制限	本製品に対するアクセス制限を設定することができます。
ユーザー管理	本製品のアクセス制限機能に関するユーザーIDや、パスワードの設定を行なうことができます。
CFメモリーカード	本製品背面のCFカードスロットに挿入されたCFメモリーカードを操作することができます。
再起動	本製品の再起動を行なうことができます。

付録1

困ったときには

本製品を使用していてトラブルがあった場合にご覧ください。

弊社ホームページをご覧ください

サポートWebページ内には、過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

http://www.iodata.jp/support/

製品Ｑ＆Ａ
Newsなど

添付のサポートソフトをバージョンアップすると解決することがあります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のサポートソフトをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
サポートソフト

本製品のWeb設定画面が表示されない
（Web 設定画面の TOP ページが表示されない）

原因1	IP アドレスを変更している
対処	ブラウザのアドレス入力位置に変更した IP アドレスを入力してください。

原因2	パソコンと本製品のネットワーククラスが異なる
対処	パソコンと本製品のネットワーククラスを合わせてください。

原因3	本製品の電源が入っていない
対処	本製品の電源を入れてください。

原因4	本製品が起動中
対処	本製品が起動するまでお待ちください。（約 70 秒かかります。）

原因5	LAN ケーブルが接続されていない
対処	LAN ケーブルを接続してください。

原因6	LAN ケーブルの種類が違う
対処	パソコンと直接接続する際はクロスケーブル、ネットワークに接続する際はストレートケーブルをお使いください。

原因7	ネットワークが混んでいる
対処	しばらくお待ちください。

IP アドレスが 192.168.0.150 となっている

原因1	全初期化を行なった
対処	本製品の背面にある全初期化ボタンを押しながら電源を投入しますと工場出荷初期設定に戻ります。後希望の設定状態に変更してください。

原因2	DHCP サーバーからの IP アドレス取得に失敗した
対処	DHCP サーバーからの取得を設定していて、DHCP サーバー等の故障で IP アドレスを取得できなかった場合、IP アドレスは 192.168.0.150 になります。

リアルタイム動画が途中で切断される

原因1	ネットワークが混んでいる
対処	しばらく待って再度、接続してください。

原因2	データレートがネットワーク帯域を上回っている
対処	ネットワーク帯域以下のデータレートを設定してください。

原因3	電波状態が悪い（PPP 接続、無線 LAN 接続）
対処	無線 LAN や PPP 接続および PPPoE 接続は、ご使用の環境等により所定のパフォーマンスを確保できないことがあります。

リアルタイム動画が表示されない

原因1	ActiveX、JavaScript が有効でない
対処	ブラウザの ActiveX、JavaScript を有効にしてください。

原因2	接続セッション数を超えている
対処	最大セッション数は 5 です。

原因3	トリガー記録中である
対処	トリガー記録終了後お使いください。

原因4	静止画処理中である
対処	静止画処理終了後お使いください。

原因5	リアルタイム動画が[無効]に設定されている
対処	動画設定でリアルタイム動画配信を[有効]にしてください。

原因6	映像入力が[外部入力]になっている
対処	入力設定の映像入力を[内蔵カメラ]にするか外部カメラを接続してください。

原因7	データレートがネットワーク帯域を上回っている
対処	ネットワーク帯域異化のデータレートを設定してください。

原因8	コーデックがインストールされていない
対処	セットアップ CD-ROM にて、サンプル ASF を再生してください。

画像が乱れる

原因	入力設定の周波数設定が間違っている
対処	入力設定の周波数設定をお使いの環境に合わせて設定してください。

音声が聞こえない

原因1	パソコンのスピーカーがミュート（消音）状態になっている
対処	ミュート（消音）を解除してください

原因2	パソコンのスピーカーのボリュームが小さい
対処	ボリュームを上げてください。

原因3	[音声なし]の設定になっている
対処	動画設定で音声を[音声なし]以外に設定してください。

原因4	音声入力が[外部入力]になっている
対処	入力設定の音声入力を[内部マイク]にするか外部カメラを接続してください。

原因5	音声コーデックがインストールされていない
対処	音声コーデックをインストールしてください。

静止画が表示されない

原因1	他セッションで静止画処理中
対処	静止画処理終了後、お使いください。

原因2	トリガー記録中
対処	トリガー記録終了後、お使いください。

原因3	動画配信中
対処	動画配信終了後、お使いください。

原因4	映像入力が[外部入力]になっている
対処	入力設定の映像入力を[内部カメラ]にするか外部カメラを接続してください。

原因5	CF メモリーカード内のファイルが静止画ファイルではない
対処	静止画（JPEG）ファイルを表示してください。

原因6	CF メモリーカードが挿入されていない
対処	静止画（JPEG）ファイルが保存されている CF メモリーカードを挿入してください。

ファイル動画が表示されない（できない）

原因1	CF メモリーカードが挿入されていない
対処	動画（ASF）ファイルが保存されている CF メモリーカードを挿入してください。

原因2	CF メモリーカードがマウント解除されている
対処	CF メモリーカードを一度取り出し、再度挿入してください。

原因3	接続セッション数を超えている
対処	最大セッション数は 5 です。

原因4	トリガー記録中
対処	トリガー記録終了後、お使いください

原因5	静止画処理中
対処	静止画処理終了後、お使いください。

原因6	CF メモリーカード内のファイルが動画ファイルではない
対処	動画（ASF）ファイルを再生してください。

IPアドレス通知機能でメール通知されない　※1（無線 LAN、PPPoE 接続の場合も同様）

原因1	固定 IP アドレス設定になっている
対処	DHCP 機能を使用するに変更してください。

原因2	E-mail による通知をチェックしていない
対処	E-mail による通知をチェックしてください。

原因3	メール設定を行なっていない、または正しく設定されていない
対処	メール設定を正しく行なってください。（DNS の確認を行ってください。）

IPアドレス通知機能でFTP転送されない　※1（無線 LAN、PPPoE 接続の場合も同様）

※1：メール通知およびFTP転送において、【機器情報】画面の[異常発生状況]の欄に異常内容が表示されている場合は、「機器情報画面に表示されるメッセージ一覧」（203ページ）を参照してください。

原因1	固定 IP アドレス設定になっている
対処	DHCP 機能を使用するに変更してください。

原因2	FTP による通知をチェックしていない
対処	FTP による通知をチェックしてください。

原因3	FTP 設定を行なっていない、または正しく設定されていない
対処	FTP 設定を正しく行なってください。（DNS の確認を行ってください。）

PPP 発信できない　※2

※2：PPP発信において【機器情報】画面の[異常発生状況]の欄に異常内容が表示されている場合は、「機器情報画面に表示されるメッセージ一覧」（203ページ）を参照してください。

原因1	PPP 発信が[有効]になっていない
対処	PPP 発信を[有効]にしてください。

原因2	発信電話番号が間違っている
対処	発信先の電話番号をご確認ください。

原因3	PPP ID、パスワードが間違っている
対処	接続先の PPP ID、パスワードをご確認ください。

PPP着信できない（パソコン等からの本製品の PHS に接続できない）

原因1	PPP 着信設定をしていない
対処	PPP 着信設定を行なってください。

原因2	PPP 着信の IP アドレスに間違いがある
対処	PPP着信IPアドレス・PPPクライアントIPアドレスには内蔵LANのIPアドレスとは異なるネットワークアドレスを設定してください。 《例》 内蔵LAN：192.168.0.150の時 PPP着信IPアドレス：192.168.1.1 PPP クライアント IP アドレス：192.168.1.2

原因3	発信者番号制限が[有効]になっている
対処	発信者番号制限を[無効]にするか、着信許可番号に電話番号を追加してください。

原因4	パソコン等からの PPP 接続時のユーザーID が登録されていない、または PPP 着信が許可されていない
対処	システム設定のユーザー管理より、新たにユーザーID を登録するか、既存のユーザーID を[PPP 着信許可する]に変更してください。

無線LANで接続できない（無線 LAN で Web 設定画面が表示されない）

原因1	内蔵 LAN のネットワークアドレスと重複している
対処	内蔵LANとは別のネットワークアドレスに設定してください。 《例》内蔵LAN：192.168.0.150 無線 LAN：192.168.1.151

原因2	無線 LAN 設定に誤りがある
対処	下記項目をご確認ください。 ・WEP設定（WEP暗号化設定、WEP Key） ・ESS-ID（インフラストラクチャモードのとき） ・チャネル番号（アドホックモードのとき）

原因3	無線 LAN アクセスポイントが有効でない
対処	お使いの無線 LAN アクセスポイントの設定をお確かめください。

PPPoEで接続できない
（PPPoE で Web 設定画面が表示されない）

原因1	PPPoE 設定が[有効]になっていない
対処	PPPoE 設定を[有効]にしてください。

原因2	PPPoE ID、パスワードが間違っている
対処	プロバイダより指定された PPPoE ID、パスワードを設定してください。

原因3	固定 IP アドレスが間違っている
対処	プロバイダより固定 IP アドレスを指定されている場合は、正しく設定されているかご確認ください。

トリガー発生通知がない
・メール通知　※1
・ユーティリティ通知

原因1	トリガー機能が[有効]でない
対処	トリガー機能を[有効]にしてください。

原因2	接点属性が間違っている
対処	接続しているセンサー等の接続属性をご確認ください

原因3	[通知なし]になっている
対処	[通知なし]の設定ではなく、[メール通知]または[ユーティリティ通知]を設定してください。

原因4	メール送信先アドレスを設定していない
対処	メール送信先アドレスを設定してください。

原因5	メール設定をしていない
対処	ネットワーク設定の共通設定でメール設定の確認を行なってください。

原因6	ユーティリティ通知先 IP アドレスが設定されていない
対処	ユーティリティ通知先のパソコンの IP アドレスを設定してください。

トリガー記録データがない（記録されない）

・メール添付　※1
・FTP転送　※1
・CF メモリーカード記録　※2

※1：メール通知およびFTP転送において、【機器情報】画面の[異常発生状況]の欄に異常内容が表示されている場合は、「機器情報画面に表示されるメッセージ一覧」（203ページ）を参照してください。

※2：記録に関して【機器情報】画面の[異常発生状況]の欄に異常内容が表示されている場合は、「機器情報画面に表示されるメッセージ一覧」（203ページ）を参照してください。

原因1	記録なし]もしくは[ユーティリティ通知]の設定にしている
対処	通知設定を[記録なし]、[ユーティリティ通知]以外にしてください。

原因2	配信のみで CF メモリーカードが挿入されていない
対処	CF メモリーカードを挿入の上、お使いください。

原因3	メール添付の場合、送信先メールアドレスを設定していない
対処	メール送信先アドレスを設定してください。

原因4	メール添付の場合、メール設定が間違っている
対処	ネットワーク設定の共通設定でメール設定の確認を行なってください。

原因5	FTP 転送の場合、FTP の設定が間違っている
対処	ネットワーク設定の共通設定で FTP 設定の確認を行なってください。

原因6	記録のみで CF メモリーカードがマウント解除されている
対処	CF メモリーカードを一度取り出し、再度挿入してください。

原因7	CF メモリーカードが挿入されていない、または容量が満杯である
対処	新しい CF メモリーカードを用意するか、CF メモリーカードのフォーマットを行なってください。

新規ユーザーが登録できない

原因1	ユーザー登録数が 20 件を超えている
対処	不要なユーザーを削除してお使いください。

原因2	ユーザーID が重複している
対処	ユーザーID がすでに登録済みの場合、同一のユーザーID は登録できません。

原因3	ユーザーID、パスワードの文字数が 4～8 でない
対処	ユーザーID、パスワードは 4 文字以上 8 文字以下で設定してください

原因4	パスワードを登録していない
対処	ユーザー登録時は必ずユーザーIDとパスワードの両方を設定してください *※工場出荷初期設定で、登録されている「admin」はパスワードなしとなっておりますが、変更によりパスワードを設定することが可能です。（元のパスワード無しに戻すには、全初期化を行なってください。）*

ユーザーが変更できない

原因	1 つしかないレベル 3 のユーザーのレベルを変更しようとしている
対処	登録ユーザーにレベル 3 のユーザーは必ず 1 つは必要です。

ユーザー削除ができない

原因	1 つしかないレベル 3 のユーザーのレベルを削除しようとしている
対処	登録ユーザーにレベル 3 のユーザーは必ず 1 つは必要です。

動画設定で「設定が間違っています」と表示される

原因1	データレート 32kbps で音声 G.726 を設定している
対処	32kbps では音声 G.726 は使用できません。設定を変更してください。

原因2	データレート 96kbps 以下で画像サイズ CIF を設定
対処	96kbps では画像サイズ CIF は設定できません。設定を変更してください。

ネットワーク設定の共通設定で「設定が間違っています」と表示される

原因1	ホスト名が空白または未入力となっている
対処	ホスト名は空白または未入力は設定不可のため、任意の名称を設定してください。

原因2	メールアドレスが間違っている
対処	メールアドレスは xxxx@xxxxxxx の形式で設定してください。

原因3	メールサーバー、FTP サーバーの IP アドレスが間違っている
対処	IP アドレスを確認の上、設定してください。

原因4	メール ID。FTP ID またはパスワードが 31 文字を超えている
対処	メール ID。FTP ID およびパスワード 31 文字以内で設定してください。

ネットワーク設定の内蔵LAN設定で「設定が間違っています」と表示される

原因1	IP アドレスが間違っている
対処	IPアドレスは、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式（xxxは0～255の範囲）で設定してください。 また、以下のアドレスは設定不可です。 0.xxx.xxx.xxx 127.xxx.xxx.xxx 224.xxx.xxx.xxx～255.xxx.xxx.xxx

原因2	サブネットマスクが間違っている
対処	IP アドレスと同様の形式で 0～31 ビット間で連続したビットの設定になるように設定してください。

原因3	すでに無線 LAN で DHCP 機能が有効なのに、内蔵 LAN で DHCP 機能を設定しようとした。
対処	無線 LAN の DHCP 機能を解除後、再度設定してください。 *※無線と有線で同時に DHCP 設定は不可*

ネットワーク設定の PPP 設定で「設定が間違っています」と表示される

原因1	発信有効時に電話番号・PPP ID・パスワードを設定していない
対処	発信有効時は、電話番号・PPP ID・パスワードを必ず設定してください。

原因2	IP アドレスが間違っている
対処	IP アドレスを確認の上、設定してください。（※項目No.22 をご参照ください。）

ネットワーク設定の無線 LAN 設定で「設定が間違っています」と表示される

原因1	IP アドレスが間違っている
対処	IP アドレスを確認の上、設定してください。

原因2	サブネットマスクが間違っている
対処	サブネットマスクを確認の上、設定してください。

原因3	すでに内蔵 LAN で DHCP 機能が有効なのに、無線 LAN で DHCP 機能を設定しようとした
対処	内蔵LANのDHCP機能を解除後、再度設定してください・ *※無線と有線で同時に DHCP 設定は不可*

ネットワーク設定の PPPoE 設定で「設定が間違っています」と表示される

原因1	IP アドレスが間違っている
対処	IP アドレスを確認の上、設定してください。

原因2	サブネットマスクが間違っている
対処	サブネットマスクを確認の上、設定してください。

トリガー設定で「設定が間違っています」と表示される

原因1	メール通知設定でメールアドレスを設定していない
対処	メールアドレスは xxxx@xxxxxxx の形式で設定してください。

原因2	ユーティリティ通知でユーティリティ通知先 IP アドレスを設定していない
対処	IP アドレスを確認の上、設定してください。

原因3	動画設定を間違っている
対処	動画設定項目をを確認の上、設定してください。

原因4	動画記録時間が 1～300 の範囲でない
対処	動画記録時間を 1～300 秒の範囲で設定してください。

上記以外の要因で「設定が間違っています」と表示される

原因	入力した内容が、設定項目制限事項で禁止されている
対処	「設定項目制限事項」をご覧ください。

CATV 局がユーザを[コンピュータ名]で管理している場合の設定方法がわからない

対処	CATV 局からの[コンピュータ名]を、本製品の[ホスト名]に設定してください。 ([設定]→[ネットワーク設定]→[共通設定]→[ホスト名]へ設定してください。)

PPPoE 接続で取得したグローバル IP アドレスを調べたい

対処	Web ブラウザの設定メニューから[機器情報]を選択してください。 PPPoE(IPCP)で取得したグローバル IP アドレス([IP アドレス])、プロバイダ側でゲートとなっているマシンのグローバル IP アドレス([デフォルトゲートウェイ])を確認する事ができます。

管理者の[パスワード]を忘れた

対処	本製品前面の[全初期化ボタン](RESET)ボタンで、再度新しい設定を行うことができます。(ただし、すべての設定が初期状態に戻ります。)(111 ページ参照)

設定画面で文字が入力できない

原因1	入力個所をクリックしていない。
対処	一度入力したい個所をクリックしてから入力してください。

原因2	入力できない文字を入力しようとしている。
対処	入力できる文字かを確認してから入力してください。

[TCP/IP]が表示されていない　（Windows Me/98 の場合）

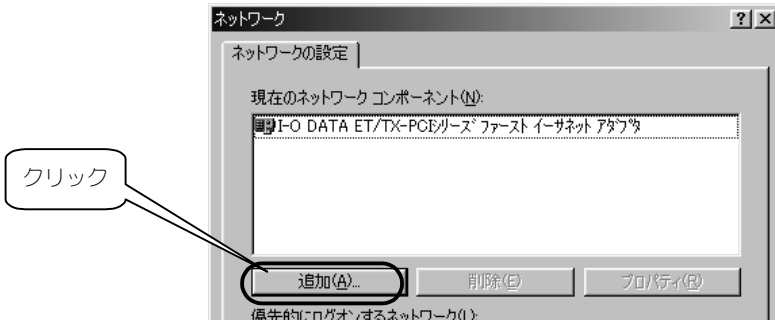
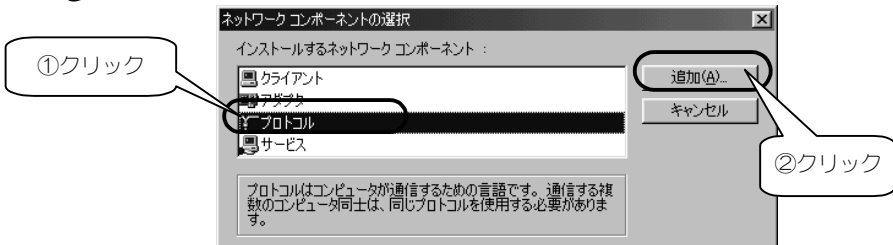
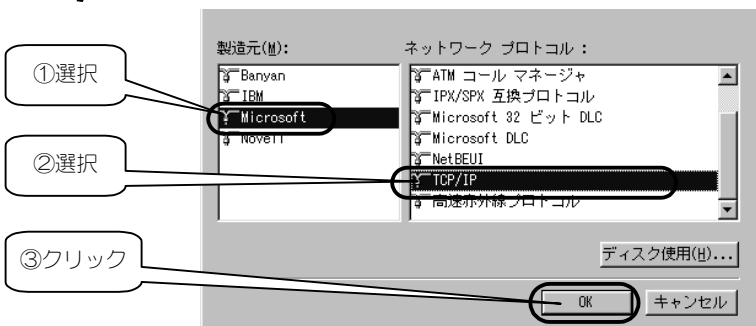
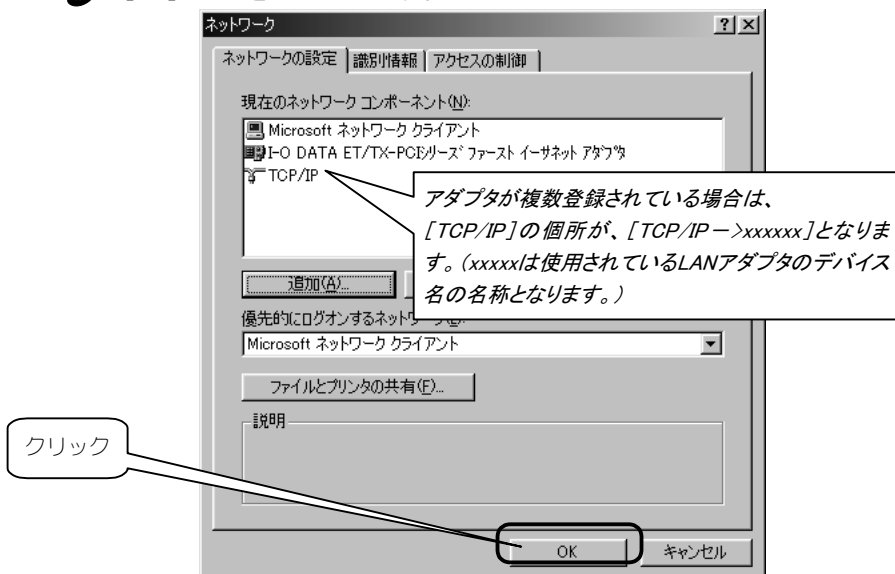
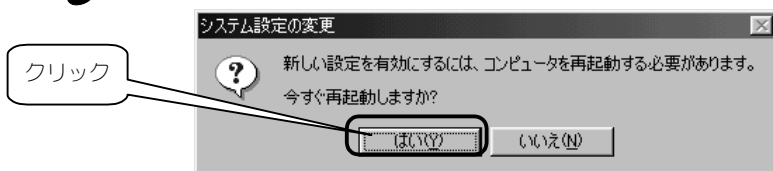
原因	TCP/IP プロトコルがインストールされていない。
対処	下記の手順で TCP/IP をインストールします。

1 「ネットワーク」を起動します。

[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、

[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

2 [追加]ボタンをクリックします。

※以下の画面は、弊社製ET/TX-PCIシリーズを例にしています。

3 [プロトコル]を選択し、[追加]ボタンをクリックします。

4 [Microsoft]の[TCP/IP]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

5 [OK]ボタンをクリックします。

6 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。

機器情報画面に表示されるメッセージ一覧

RUNランプの赤点灯で知らせる配信異常

No.	機器情報の表示	対処方法
1	[トリガー通知]メールサーバーが見つかりませんんでした	メール設定のSMTPサーバー、POPサーバーの設定内容を確認してください
2	[トリガー通知]メールサーバーの認証に失敗しました	メール設定のメールID、パスワードの設定内容を確認してください
3	[トリガー通知]メール送信に失敗しました	メール設定の設定内容を確認してください また、メールサーバーが正しく設定されているか確認してください
4	[トリガー通知]FTPサーバーが見つかりませんでした	FTP設定のFTPサーバーの設定内容を確認してください
5	[トリガー通知]FTPサーバーの認証に失敗しました	FTP設定のFTP ID、パスワードの設定内容を確認してください
6	[トリガー通知]FTP送信に失敗しました	FTP設定の設定内容を確認してください また、FTPサーバーが正しく設定されているか確認してください
7	[IPアドレス通知]メールサーバーが見つかりませんんでした	メール設定のSMTPサーバー、POPサーバーの設定内容を確認してください
8	[IPアドレス通知]メールサーバーの認証に失敗しました	メール設定のメールID、パスワードの設定内容を確認してください
9	[IPアドレス通知]メール送信に失敗しました	メール設定の設定内容を確認してください また、メールサーバーが正しく設定されているか確認してください
10	[IPアドレス通知]FTPサーバーが見つかりませんでした	FTP設定のFTPサーバーの設定内容を確認してください
11	[IPアドレス通知]FTPサーバーの認証に失敗しました	FTP設定のFTP ID、パスワードの設定内容を確認してください
12	[IPアドレス通知]FTP送信に失敗しました	FTP設定の設定内容を確認してください また、FTPサーバーが正しく設定されているか確認してください

MEMORYランプの赤点灯で知らせる配信異常

No.	機器情報の表示	対処方法
1	CFカードスロットにCFカードが装着されていません	CFカードスロットにフォーマット済みのCFメモリーカードを装着してください
2	CFスロットにCFメモリーカードが装着されていません	CFカードスロットにフォーマット済みのCFメモリーカードを装着してください
3	CFメモリーカードがフォーマットされていません	CFメモリーカードをフォーマットしてください または、CFカードスロットにフォーマット済みのCFメモリーカードを装着してください
4	CFメモリーカードに空き容量がありません	十分な空き容量のあるCFメモリーカードを装着してください または、不要なファイルを削除して空き容量を増やしてください
5	CFメモリーカードがマウントされていません	CFメモリーカードがアンマウントされています、カードを抜いて、再度挿入してください

※CFメモリーカードの空き容量不足時のみRUNランプが赤点滅します

その他（ランプ表示はありません）

No.	機器情報の表示	対処方法
1	[トリガー通知]モニタリングユーティリティに通知できませんでした	通知・データ転送先のユーティリティ通知先IPアドレスの設定内容を確認してください また、モニタリングユーティリティの設定内容を確認してください
2	[PPP発信]PPP発信に失敗しました	CFカードスロットにPHSカード、またはモデムカードが正しく装着されていることを確認してください また、発信機能の設定内容を確認してください
3	その他エラー（***）	再起動により復旧してください。(***)は、エラーコードを示します。 *※このエラーコードが、発生したときはお手数ですがサポート窓口へエラーコードをお伝えくださいますようお願い致します。*

付録2

添付のCD-ROMについて

ここでは、添付のCD-ROMについて説明します。

CD-ROMの内容一覧

添付のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると、以下のメニューが表示されます。

メニューボタン	詳細
①BROAD STREAMユーティリティのインストール	BROAD STREAMユーティリティ（IPアドレス設定ユーティリティ・モニタリングユーティリティ）のインストールおよびアンインストール、コンポーネントの変更・修正を行ないます。
②Windows Media（TM）Player7.1のインストール	Windows Media（TM）Player7.1のインストールを行ないます。
③Adobe（R）Acrobat（R）Reader（TM）5.0のインストール	Adobe（R）Acrobat（R）Reader（TM）5.0のインストールを行ないます。
④オンラインマニュアルの参照	オンラインマニュアルを参照できます。 オンラインマニュアルはPDFファイル形式のため、「Adobe（R）Acrobat（R）Reader（TM）5.0」をインストールしてください。
⑤サンプル動画ファイルの再生	MPEG-4、G.726対応のコーデックソフトをインストールするための再生用ファイルです。
⑥VoiceAge SPOTxde（TM）ウェブサイト	GSM-AMR対応のコーデックソフトをインストールするために「VoiceAge SPOTxde（TM）ウェブサイト」に接続します。
⑦メニューの終了	[セットアップCD-ROMのメニュー]画面を終了します。

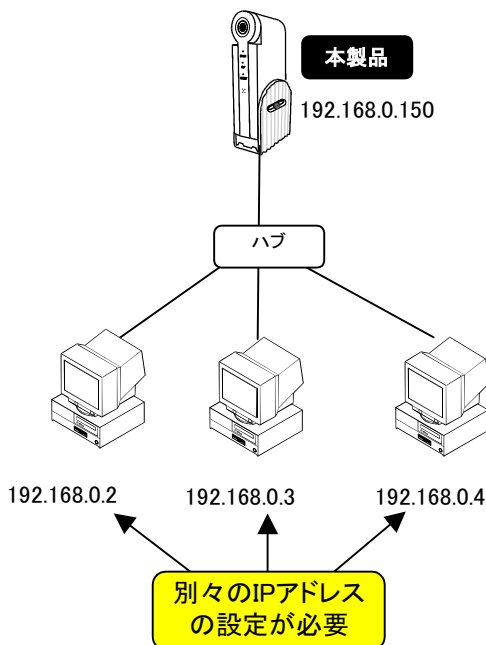
付録3

TCP/IPの基礎知識

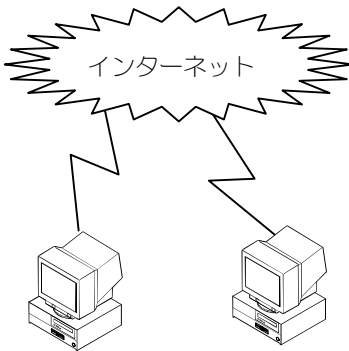
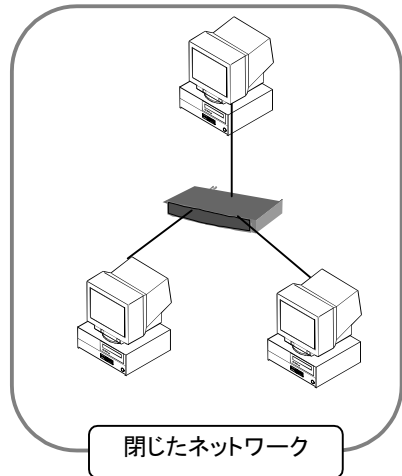
ここでは、本製品を使用する上で必要となるTCP/IPプロトコルのIPアドレスの基礎知識について説明します。必要に応じてお読みください。

IPアドレス

同じネットワーク上では別々のIPアドレスが必要

本製品を使用するには、本製品やパソコンにIPアドレスの設定が必要です。
また、設定するIPアドレスは、本製品および本製品に接続したパソコンのすべてに別々のIPアドレスが必要です。
IPアドレスとは、データを送受信するためのパソコン同士で理解できる住所のようなものです。
町の１軒１軒の家が別々の住所を持つように、パソコンも１台１台が別々のIPアドレスを設定する必要があります。同じIPアドレスを持つパソコンがあるとどちらにデータを送ればいいのかわからなくなるためです。
例えば、本製品は出荷時「192.168.0.150」のIPアドレスを持ちますが、ネットワーク上に、同じIPアドレスを設定したパソコンがあると、他のパソコンから本製品やその同じIPアドレスのパソコンにアクセスできなくなります。

インターネットのIPアドレスとLANのIPアドレス

IPアドレスには、「グローバルIPアドレス」と「ローカルIPアドレス」（プライベートIPアドレス）があります。
「グローバルIPアドレス」は、インターネットで使用するIPアドレスです。
「ローカルIPアドレス」は、通常LAN内で使用するIPアドレスです。

グローバル IP アドレス	ネットワーク上で別々の IP アドレスが必要であるように、インターネットを利用する世界中のすべてのパソコンがそれぞれ別々の IP アドレスを使用する必要があります。この IP アドレスがグローバル IP アドレスです。 通常、プロバイダより割り当てられます。
ローカル IP アドレス	インターネットに接続されていない環境（家庭内のみ、会社内のみなど）では、ネットワーク内で別々の自由な IP アドレスを使用することができます。 この IP アドレスがローカル IP アドレスです。

LAN内で使用するIPアドレスのクラス

IPアドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、3つのクラスに分かれます。
大規模なネットワークならば[クラスAのIPアドレス]、中規模なら[クラスBのIPアドレス]、小規模の場合は[クラスCのIPアドレス]となります。
同一のネットワーク内では、同一クラスのIPアドレスである必要があります。
実際には、本製品の出荷時のIPアドレス「192.168.0.1」のように、IPアドレスは、ピリオドで区切られた4つの数字の羅列で構成されていて、4つの数字の最初の数字の値で、クラスが分けられます。

例　本製品の出荷時のIPアドレス「192.168.0.1」の場合は「192」

クラスは以下のように分類されています。

IP アドレスの最初の数字※	クラス	用途（ネットワークを構成するパソコンの台数）
1～127	クラスA	大規模ネットワーク用（最大約 1600 万台）
128～191	クラスB	中規模ネットワーク用（最大約 65000 台）
192～223	クラスC	小規模ネットワーク用（最大約 250 台）

※「224～255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台～数10台で構成されるネットワークでは、クラスCのIPアドレスを使用します。
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカルIPアドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラスA	10.0.0.0　～　10.255.255.255
クラスB	172.16.0.0　～　172.31.255.255
クラスC	192.168.0.0　～　192.168.255.255

DHCP

DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)とは、IPアドレスの自動割り当て機能のことです。
DHCPは、DHCPサーバーとDHCPクライアントで構成され、DHCPサーバーがDHCPクライアントに使用可能なIPアドレスを割り当てます。
例えば、本製品をDHCPサーバーとし、複数台のすべてのパソコンをDHCPクライアントに設定した場合、各パソコンは、パソコン起動時に使用可能なIPアドレスを入手し、終了時に開放します。

●*DHCP の特徴*

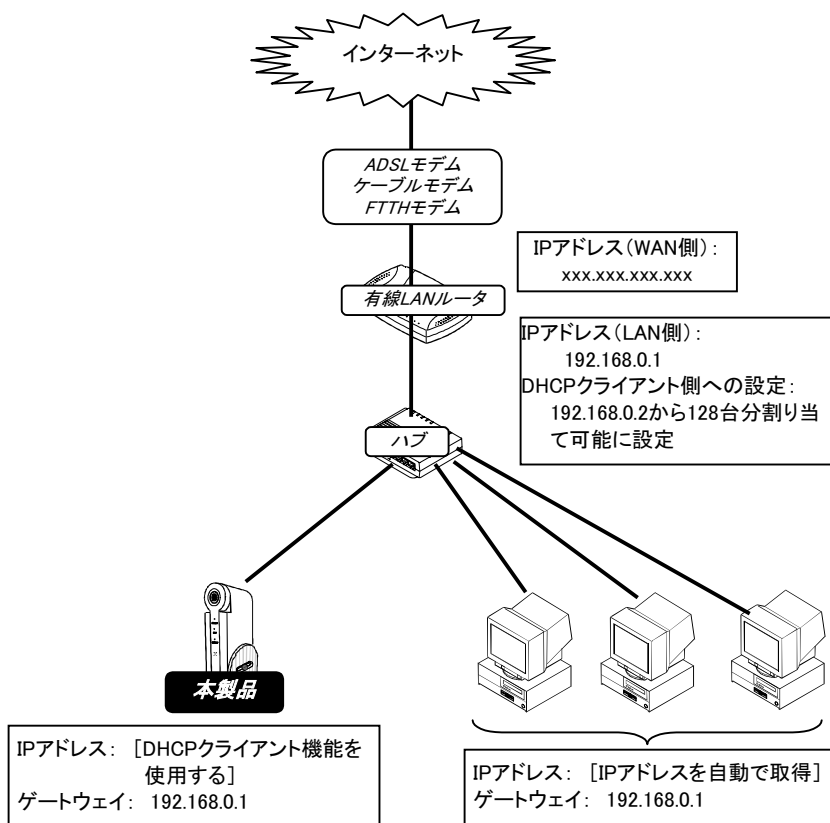
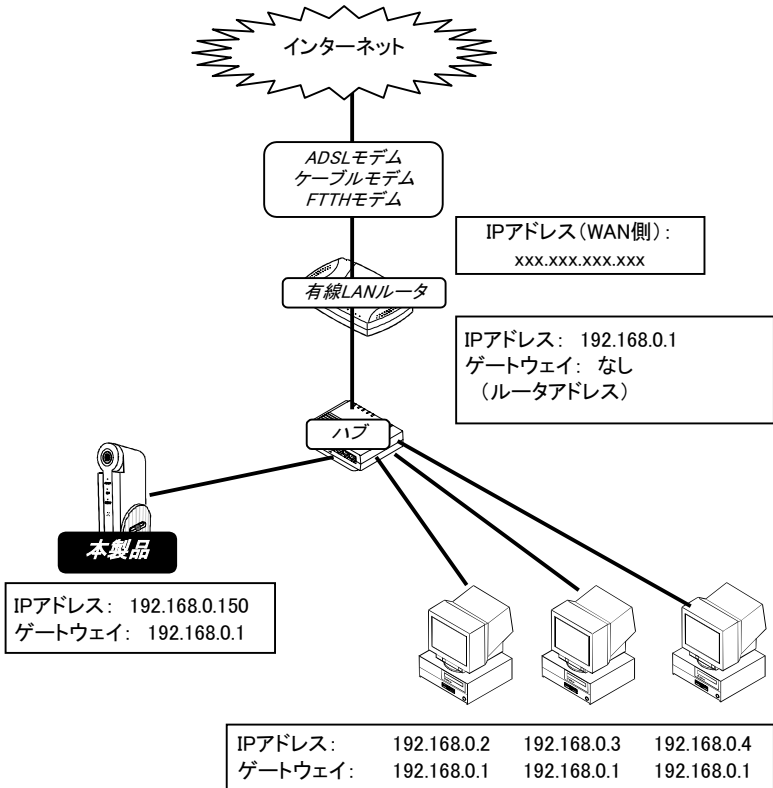
- 個々のパソコンに IP アドレスをセットする手間が省けます。
- 設定できる IP アドレスが変更された場合、DHCP サーバーのみの変更で済みます。
  そのため、クライアント側で IP アドレスを考慮する必要がなくなります。
  DHCP クライアント側では、DNS やゲートウェイ(ルータ)の IP アドレスも自動で設定されます。
- DHCP クライアント側の IP アドレスは、起動時毎に毎回異なる場合があります。

注意！

本製品を DHCP サーバーとした場合は、必ず本製品が正常に起動した後に、パソコンを起動してください。パソコンを先に起動すると IP アドレスが正常に割り当てられなくなる場合があります。

具体的なIPアドレスの設定例

ここでは、小規模ネットワークでの、本製品を使用した場合の IP アドレスの具体的な設定例について説明します。

本製品をDHCPクライアントとして使用する場合の例

IPアドレスをすべて手動で設定する場合の例

通信や接続が正しいかの確認方法

Windows標準のPINGコマンドを使用して相手先のパソコンに正常に通信、あるいは接続が正常かを確認することができます。

PING コマンドを使用するには、TCP/IP がインストールされている必要があります。

1 [MS-DOSプロンプト]（またはコマンドプロンプト）を起動します。

・Windows XPの場合

[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]を順にクリックして起動します。

・Windows 2000の場合

[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]を順にクリックして起動します。

・Windows Meの場合

[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[MS-DOSプロンプト]を順にクリックして起動します。

・Windows 98の場合

[スタート]→[プログラム]→[MS-DOSプロンプト]を順にクリックして起動します。

2 以下のように入力し、[ENTER]キーを押します。

PING xxx.xxx.xxx.xxx　　（xxx.xxx.xxx.xxx は相手先のIPアドレス）

入力例）　相手先のIPアドレスが「192.168.0.10」の場合は以下のように入力します。

PING　192.168.0.10

3 正常に相手先が表示されるか確認してください。

正常に接続されない場合、「Request timed out」や「Destination host unreachable」などと表示されます。

付録4

用語解説

ここでは、本製品の関連する用語について説明します。

■数字

10BASE-T
Ethernetの1規格で、ケーブルやコネクタの形状、通信速度などを定めた規格。理論値で10Mbps通信帯域（速度）となっています。

16進数
0から9までの数字に加え、「A」から「F」の6つのアルファベットを使って（0123456789ABCDEF）数値を表記する方法。

■アルファベット

ActiveX
米国のMicrosoft社が開発したソフトウェアの技術そ総称で、webブラウザでアクセスしたサーバーから、プログラムをダウンロードし、起動できるという機能を持っています。この技術により通常のブラウザでは持っていない機能を閲覧時に追加してwebページを閲覧することができるようになります。

Adhoc
無線LANを搭載した機器同士が、無線LAN用アクセスポイントを経由せず、直接通信するモード。

ADSL（Asymmetric Digital Subscriber Line）
既存の電話回線を利用して、音声電話では使用していない高い周波数を利用し、高速のデータ通信を行なう技術です。送信速度と受信速度が非対称であるために「Asymmetric」の語を使っています。日本では1.5Mbpsと8MbpsのADSL回線が整備されつつあります。

AMR（GSM-AMR）
第三世代移動体通信（NTTドコモのFOMAなど）で利用される音声信号のデジタル圧縮方式。

ASF（Advanced Streaming Format）
Microsoft社が提唱する次世代マルチメディアフォーマットで、音声やビデオ画像だけでなく、テキスト、MIDIデータなども、同一のASFのデータに含めることができます。

CATV
有線を利用したテレビ放送、ケーブルテレビを指しています。テレビ放送以外にも、インターネット接続サービスも行っている場合もあります。

CIF（Common Intermediate Format）
横352×縦288ドットのサイズで表示される映像フォーマット。

CMOSセンサー（Complementary Metal-Oxide Semiconductor Sensor）
光を電機信号に変換するデバイスの一種。信号の読み出し速度を高速化できる、消費電力を少なくでききるなどのメリットがあります。

DHCP（Dynamic Host Control Protocol）
TCP/IPネットワークにおいて、サーバーから動的にIPアドレスなどのネットワーク構成情報を取得するプロトコル。

DHCPクライアント機能
DHCPサーバーに対してIPアドレス発行要求を出し、サーバーから自分のIPアドレスを取得する機能です。ゲートウェイなどのネットワーク構成情報も取得できます。

DHCPサーバー機能
DHCPクライアントの要求に応えてIPアドレスを発行する機能。IPアドレス、ゲートウェイ、サブネットマスクなどの情報を管理し、クライアントに割り当てることができます。

DNS（Domain Name System）
IPアドレスは“192.168.1.5”といった数値の羅列で構成され、人間にとって扱いにくいため、アルファベットと数字（と一部の記号）を使うことができる「ドメイン名」として運用することができます。このドメイン名と、IPアドレスを自動的に変換するしくみをDNSといい、そのサーバーを「DNSサーバー」と呼びます。

ESS-ID（Extended Service Set Identifier）
無線LANにおいて通信相手を特定するための識別番号です。お互いを照合する暗証番号のようなもので、このESS-IDが一致した相手同士で通信できるようになります。

Ethernet
LANで用いられるケーブルを分岐、中継するための装置です。8ポート、4ポートなど、ポートの数は様々です。

FTP（File Transfer Protocol）
インターネットやイントラネットなどのTCP/IPネットワークにおいて、ファイルを転送するときに使われるプロトコル。現在のインターネットではHTTPたSMTP/POP3とともに、頻繁に利用されています。

G.726
音声信号のデジタル圧縮方式。AMRに比べ高品質ですが、データ量が大きくなります。

HTML（Hyper Text Markup Language）
ウェブページを記述する書式。この書式で記述された文書ファイルをインターネットブラウザソフトで読むことでウェブページとして閲覧することができます。

HTTP（Hyper Text Transfer Protocol）
Webサーバとクライアント（webブラウザなど）が、HTMLで記述されたファイルなどを送受信するための通信プロトコル。

Infrastruction
ネットワークに接続した無線LAN用のアクセスポイントを経由して、各コンピュータがLANやインターネットに接続する方式。一般に現状で無線LANといえば、この形態で使用されています。

IPアドレス（Internet Protocol Address）
インターネットやイントラネットなどのIPネットワークに接続された、全てのコンピュータなど1台ずつに割り振るべき識別番号。インターネットに接続されている機器では、世界で1つだけのグローバルIPアドレスを割り当てておく必要があります。

JavaScript
Sun Microsystems社とNetscape Communications社が開発したスクリプト言語（簡易プログラミング言語）。Webブラウザ上で実行されるプログラムを記述するための言語規格の1つです。

JPEG（Joint Photographic Experts Group）
ITU-TS（国際電気通信連合：旧CCITT）、およびISO（国際標準化機構）が共同推進した静止画圧縮技術の標準化、またはその規格の名称。一般的な静止画圧縮方式で、静止画像を1/10～1/100のデータ量に圧縮できます。

LAN（Local Area Network）
ローカルエリアネットワークの言葉のとおり、同一のフロアや同一の建物内、キャンパスの中など、比較的狭い地域で運用されるコンピューターネットワークのこと。

MACアドレス（Media Access Control Address）
Ethernet端子に割り当てられている固有の識別番号であり、全世界において番号が重複することはありません。Ethernetにおいては、この番号を元にしてデータの送受信を行ないます。

MPEG（Motion Picture Experts Group）
ISO（International Standard Organization/国際標準化機構）、およびIEC（International Electrotechnical Commission/国際電気標準会議）が共同推進した動画圧縮技術の標準化組織、またはその規格の名称。テレビ電話やテレビ会議用に作られたADCT（Adaptive Discrete Cosine Transform/適応化離散コサイン変換）というアルゴリズムと、MC（動き補正）を組み合わせ、リアルタイム動画圧縮の符号化をするしくみです。動画と音声を合わせ、転送レート1.5Mbit/sec（bps）の規格がMPEG-1で、VideoCDなどに使用され、MPEG-2はDVDやCS放送などに使用されています。MPEG-4は、携帯電話などのモバイル機器で動画を送受信するための規格です。

PDA（Personal Digital Assistant）
個人用の携帯情報端末。一般的には手のひらに収まるサイズの電子機器で、液晶表示、ペン入力、外部データ利用などの機能を備えており、バッテリ（電池）で駆動します。

PIAFS
PHSにコンピュータなどをつないで、データ通信をするための規格。
32kbps/64kbpsなどの速度で通信が可能。

POP（Post Office Protocol）
電子メールを受信しているサーバーから、TCP/IPプロトコルを使って受信したメールの内容をクライアントPCなどに読み出すためのプロトコル

POP before SMTP
電子メールの送信を行う際のユーザー認証方式の一つ。メール送信前に指定のPOPサーバーに事前にアクセスすることにより、SMTPサーバーの使用（メールの送信）が可能となります。

PPP（Point to Point Protocol）
電話回線を通じてコンピュータをネットワーク接続する「ダイヤルアップ接続」で使われるプロトコル。ISDN接続、モデム接続といった「ダイヤルアップIP接続」でインターネットに接続する際にこのプロトコルを使います。

PPPoE（Point to Point Protocol over Ethernet）
ダイヤルアップ接続におけるPPP接続と同様の通信を、ADSLモデムを介してEthernetによる通信で行なうための方式。

QCIF（Quarter CIF）
横176×縦144ドットのサイズで表示される映像フォーマット。

RAMディスク
機器を動作させるための内部メモリを記録ディスクのように利用すること。機器の電源が切れると、記録データが消去されます。

SMTP（Simple Mail Transfer Protocol）
インターネットやイントラネットで電子メールを送信するためのプロトコル。サーバー間でメールのやりとりをしたり、クライアントがサーバーにメールを送信する際に用いられます。一般的にメールプログラムと連携して動作します。

SQCIF（Sub QCIF）
横128×縦96ドットのサイズで表示される映像オーマット。

TCP/IP（Transmission Control Protocol/Internet Protocol）
インターネットやイントラネットにおいて標準的に使用されるプロトコル。メールやHTMLデータをやり取りする際、どういう手順でデータを送るのかを一定のルールにしたものです。

URL（Uniform Resource Locator）
インターネット上に存在する文書や画像などの場所を示す記述方式。インターネットにおける情報の「住所」にあたります。

Webブラウザ
Webページを閲覧（ブラウズ）するためのソフトウェア。代表的なwebブラウザにNetscape NavigatorやMicrosoft Internet Explorerがあります。

WWW（World Wide Web）
インターネットやイントラネットで標準的に用いられるドキュメントシステム。URLとHTTPを用いてHTMLを表示することが可能。一般的にはインターネットと混同されることが多い。

■かな

アンマウント
CFカードなどの周辺機器の動作を停止させ、本製品やパソコンから切り離すこと。

インストール（Install）
新たにハードウェアやソフトウェアをシステムに組み込むこと。たとえば拡張カードを追加したり、新しいソフトウェアをパソコンシステムに組み込むときに用いられます。「セットアップ」という場合もあります。

インターネット（Internet）
TCP/IPネットワークプロトコルによって、世界中のコンピュータを相互接続したネットワークの総称。電子メールやwebページ閲覧などのサービスが提供されます。単にwebページ閲覧を意味する使われ方を場合もあります。

イントラネット（Intranet）
インターネットで使用されるさまざまな技術を、組織内のネットワーク環境の実現に応用したネットワークのこと。

グローバルIPアドレス
インターネットで使うことを許されたIPアドレス。他に重複することのない、世界で唯一のIPアドレスのこと。

クロスケーブル
Ethernetの10BASE-T/100BASE-TXなどで、パソコンやネットワーク機器を1対1で直接つなぐために使われるケーブル。ケーブル内部で入力と出力が￥の配線がクロスしていることからこの名称となっています。

ゲートウェイ→デフォルトゲートウェイ

ケーブルモデム
CATV回線を使って、インターネットに接続するための装置。電話回線におけるモデムの役割を果たすため、ケーブルモデムといいます。通常のモデムとは異なり、パソコンとはEthernetと使用して接続します。

コーデック（CODEC）
デジタルビデオやデジタルオーディオのデータを圧縮/伸張する際に用いられるアルゴリズムとそのソフトウェア。パソコン上でビデオやオーディオの再生をする場合、それに対応したコーデックが存在していないと再生できません。

コンパクトフラッシュ（CompactFlash）
SanDisk社提唱のCFメモリーカードの規格。CompactFlashはデジタルカメラなどの記憶装置として使われています。

サブネットマスク（Subnet Mask）
TCP/IP接続時に、ネットワークをいくつかに区切るため、マシンに割り当てるIPアドレスの範囲を限定します。この時、区切られたネットワークとその設定値をサブネットマスクを呼びます。

ストレートケーブル
Ethernetの10BASE-T/100BASE-TXなどで、パソコンやネットワーク機器とEthernet HUBを接続する際に使われるケーブル。

セカンダリーDNS
DNSサーバーは、重要な役割を持ったサーバなのでプライマリーDNS以外にバックアップ用のDNSサーバーをネットワーク上に構成し、運用するのが一般的となっています。このバックアップ用のDNSサーバーのことをセカンダリーDNSと呼びます。

セットアップ→インストール

ダイヤルアップ機能
インターネット接続に際し、必要な時だけ電話回線やISDNを通じて接続する方法。

ダウンロード（Download）
遠隔地にあるパソコンやネットワーク機器から、インターネットやネットワークを通じて、サーバコンピュータに保存されているデータを手元のパソコンに転送し、保存すること。

デフォルトゲートウェイ
同一ネットワーク以外のパソコンやネットワーク機器へアクセスする際に使用する「出入口」にあたるパソコンやルーター。またその機器に割り当てられているIPアドレスを指します。

ネットマスク→サブネットマスク

ネットワーク
複数のコンピュータやネットワーク機器をケーブルなどで接続し、お互いのデータのやり取りをする仕組みの総称。

ファームウェア（FirmWare）
機器を動作させるためのプログラム。

ファイルシステム
CFメモリーカードなどの記憶装置に記録されているデータを管理する方式。記録装置のどこに何のファイルがあるのか、などの情報を記録しています。

フォーマット（Format）
CFメモリーカードなどの記録装置に記録されたデータを全て削除すること。

フォワーディング
ルーターのIPアドレスへアクセスされた際に、ルーターに接続している特定のパソコンやネットワーク機器が所有するIPアドレスに対し、指定ポート番号に属するデータのみを送信する機能。ルーターのフォワーディング設定がなされていると、たとえばルーターにIPアドレスにアクセスする際"192.168.0.2：80"とポート番号を追記すると、ルーターに接続した本製品を閲覧することができます。

プライマリーDNS
通常メインに使用するDNSサーバー

ブラウザ→webブラウザ

フレームレート（Frame Rate）
動画表示時の画面の更新速度。1秒間に何回画面を書きかえられるかを表します。単位は"fps（frame per second）"で、この数値が高いほど、滑らかな動画になります。

ブロードバンド（Broadband）
大容量のデータを送受信可能な次世代高速ネットワークの総称。文字や静止画だけでなく、音声や動画なども快適に通信可能になります。代表的なものとしてCATVインターネット機能やADSLなどがあります。

プロトコル（Protocol）
ネットワークを通じて。コンピュータやネットワーク機器が情報をやり取りするための取り決め。

ポート番号
TCP/IPなどにおいて、サービス（アプリケーションの種類）を区別するために使われる番号。たとえばメールに使うSMTPは25、HTTPは80が一般的に用いられます。

マウント
CFメモリーカードなどの周辺機器を本製品やパソコンに認識させ、操作可能にすること。

モデム（Modem）
パソコンで取り扱うデジタルデータを、電話回線などの様々な回線で取り扱えるアナログデータに変換する装置です。ADSL、CATVなどの各種モデムがあります。また電話回線を使ってインターネット接続を行なう場合に必要なパソコンの周辺機器を指すSことも多い。

ランタイム
アプリケーションソフトを実行する際に必要となるソフトウェアモジュール（部品）のこと。

ルーター（Router）
ネットワーク上を流れるデータを、他のネットワークに中継する機器。ネットワーク機器のIPアドレスを見て、どの経路を通じて転送すべきか判断する機能を持ちます。

付録5
仕様

本体仕様

項目		仕様	備考
モデル名		TSR-MS4(BROAD STREAM)	
圧縮方式	動画	MPEG-4 Simple Profile Level1	
	静止画	JPEG	
	音声	G.726 32kbps、GSM-AMR 7kbps,12kbps	
解像度		CIF(352×268)、QCIF(176×144)、SubQCIF(128×96)	
フレームレート		最大30fps	*1
配信データレート		32kbps～768kbps(10段階)	
ファイル形式		Microsoft Advanced System Format	
対応プロトコル		HTTP、FTP、SMTP	
ネットワーク機能		Webサーバー、FTPサーバー、PPP発着信、DHCPクライアント	
配信セッション数		最大5セッション	設定により変更可能
内部入力デバイス	映像	CMOSセンサーカメラモジュール×1	
	音声	モノラルマイクモジュール×1	
外部映像入力	映像入力	NTSC方式	75Ω/1Vp-p
	コネクタ	RCAコネクタ×1	
外部音声入力	音声入力	モノラルマイク入力	*2、*3
	コネクタ	φ3.5mmピンジャック×1	
内蔵LAN	通信方式	Ethernet 10BASE-T	
	コネクタ	RJ45コネクタ×1	

項目		仕様	備考
外部拡張		CF+TM TypeⅡ準拠スロット×1	*4
トリガー入力	入力方式	無電圧接点入力	
	コネクタ	スクリューレス端子台×1ch	
外部スイッチ		全初期化ボタン×1	
LED表示	電源確認用	緑色LED×1	POWERランプ
	配信確認用	赤／緑／オレンジ色LED×1	RUNランプ
	記録確認用	赤／緑／オレンジ色LED×1	MEMORYランプ
	CF確認用	緑色LED×1	
	LAN確認用	緑色LED×2	LINKランプ/ACTランプ
電源入力		AC100V(50/60Hz)	専用ACアダプター使用
消費電力		最大10W	DC5V/2A(本体のみ)
外形寸法		約180(H)×約50(W)×約70(D)(mm)	突起物を除く、本体のみ
製品重量		約390g	本体のみ
使用環境温度		0～40℃	屋外での利用は動作保証外
使用環境湿度		20～80%	結露しないこと
対応規格		VCCI ClassB	

**1:フレームレートは、ネットワーク環境やパソコンの設定で変わります。*
**2:マイクはエレクトレットコンデンサマイク(ECM)を使用してください。*
**3:AV機器との接続には、抵抗入りオーディオケーブルを使用してください。*
**4:使用できるCFカードに関しては、弊社指定のCFカードに限ります。弊社指定以外のCFカードをご使用になられますと、CFカードを破損することもありますので、ご注意ください。*

内部カメラ仕様

項目	仕様	備考
撮像素子	1/5インチCMOSセンサー	
有効画素数	CIFサイズ(352×288画素)	
水平画角	50度	
焦点距離	f=3.2mm	
レンズFNo.	F2.8	
焦点	固定焦点	
フォーカス範囲	25cm～∞	
露光制御	オート	
ホワイトバランス	オート	
最低対応照度	約10Lux	*4

*4:被写体の環境が暗い場合、画像にノイズが目立つようになります。
全ての仕様は、予告無く変更されることがあります。

扱える画像データの種類

配信フォーマット	Microsoft Advanced Streaming Format(ASF形式)
解像度	CIF(352×288)、QCIF(174×144)、SQCIF(128×96)
動画圧縮方式	MPEG-4 Simple profile level 1
静止画圧縮方式	JPEG
音声圧縮方式	G.726　または　AMR(中／低)

出荷時設定

■メモリカード動画

設定項目	設定値	工場出荷 初期設定値
データレート	32k,64k,128k,144k,192k,256kbps	64kbps
画質	高、中、低	中
解像度	CIF、QCIF、SQCIF	QCIF
音声	G.726、AMR（中）、AMR(低)、音声無し	G.726

■動画設定

設定項目	設定値	工場出荷初期設定値
リアルタイム動画配信	有効、無効	有効
データレート	32k,64k,128k,144k,192k, 256k,384k,512k,768k(bps)	64kbps
画質	高、中、低	中
解像度	CIF、QCIF、SQCIF	QCIF
音声	G.726、AMR（中）、AMR(低)、音声無し	G.726

■静止画設定

設定項目	設定値	工場出荷初期設定値
画質	高、中、低	中
解像度	CIF、QCIF、SQCIF	QCIF

■入力設定

設定項目	設定値	工場出荷初期設定値
映像入力	内蔵カメラ、外部入力	内蔵カメラ
音声入力	内蔵マイク、外部入力	内蔵マイク
内蔵カメラ画像上下反転表示	有効、無効	無効
周波数設定	50Hz,60Hz,屋外	屋外

■ネットワーク設定

設定項目			設定値	工場出荷初期設定値
共通設定	カメラタイトル			【空】
	ホスト名			TSR-MS4
	IPアドレス通知	メール送信先アドレス		【空】
		FTP転送先ディレクトリ		【空】
		FTP転送ファイル名		【空】
	メール設定	メールアドレス		【空】
		SMTPサーバー		【空】
		POP before SMTP	有効、無効	無効
		POPサーバー		【空】
		メールID		【空】
		パスワード		【空】
	FTP設定	FTPサーバー		【空】
		FTP ID		【空】
		パスワード		【空】
内蔵LAN設定	IPアドレス	固定IPアドレスを指定する DHCPクライアント機能を使用する		固定IPアドレスを指定する
	固定IPアドレスを指定する	IPアドレス		192.168.0.150
		サブネットマスク		255.255.255.0
	DHCPクライアント機能を使用する	E-mailによる通知	チェックボックス・オン/オフ	オフ
		FTPによる通知	チェックボックス・オン/オフ	オフ
	デフォルトゲートウェイ			【空】
	DNSサーバー	DNSプライマリー		【空】
		DNSセカンダリー		【空】

PPP設定	発信機能	有効、無効		無効
	有効	電話番号		【空】
		PPP ID		【空】
		パスワード		【空】
	IPアドレス	固定IPアドレスを使用する IPアドレスを自動的に割り当てる		IPアドレスを自動的に割り当てる
	固定IPアドレスを使用する	IPアドレス		【空】
		サブネットマスク		【空】
	DNSサーバー	DNSプライマリー		【空】
		DNSセカンダリー		【空】
	着信機能	PPP着信 PPPトリガー 無効		無効
	PPP着信	PPP受信IPアドレス		【空】
		PPPクライアントIPアドレス		【空】
		着信番号制限	有効、無効	無効
		着信許可番号	最大5件入力可能	【空】

無線LAN設定	IPアドレス	固定IPアドレスを使用する DHCPクライアント機能を使用する		DHCPクライアント機能を使用する
	固定IPアドレスを使用する	IPアドレス		192.168.1.2
		サブネットマスク		255.255.255.0
	DHCPクライアント機能を使用する	E-mailによる通知	チェックボックス・オン/オフ	オフ
		FTPによる通知	チェックボックス・オン/オフ	オフ
	無線設定	WEP暗号化	40Bit、12Bit、無効	無効
		WEP Key		【空】
		通信モード	Ad hoc Infrastructure	Infrastructure
		ESS-ID		【空】
		チャネル番号	1.2.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14	1
	デフォルトトデートウェイ			【空】
	DNSサーバー	DNSプライマリー		【空】
		DNSセカンダリー		【空】
PPPoE設定	PPPoE	使用する 使用しない		使用しない
	使用する	PPPoE ID		【空】
		パスワード		【空】
	IPアドレス	固定IPアドレスを使用する IPアドレスを自動的に割り当てる		IPアドレスを自動的に割り当てる
	固定IPアドレスを使用する	IPアドレス		【空】
	IPアドレスを自動的に割り当てる	E-mailによる通知	チェックボックス・オン/オフ	オフ
		FTPによる通知	チェックボックス・オン/オフ	オフ
	DNSサーバー	DNSプライマリー		【空】
		DNSセカンダリー		【空】

■トリガー設定

設定項目		設定値	工場出荷初期設定値
トリガー機能		有効、無効	無効
有効	属性	A接点、B接点	A接点
	検知方法	エッジ、レベル	エッジ
トリガー動作		データを添付してメール通知 メール通知（データ添付なし） データをFTP転送してメール通知 FTP転送 通知なし（記録のみ） ユーティリティへのトリガー通知	通知なし（記録のみ）
データを添付してメール通知		一定時間記録、静止画記録	--------- （無効な選択）
メール通知 （データ添付なし）		一定時間記録、検知中記録、静止画記録 記録なし（通知のみ）	--------- （無効な選択）
データをFTP転送してメール通知		一定時間記録、静止画記録	--------- （無効な選択）
FTP転送		一定時間記録、検知中記録、静止画記録	--------- （無効な選択）
通知・データ転送先	メール送信先アドレス		【空】
	FTP通知先ディレクトリ		【空】
	トリガー通知先IPアドレス		【空】
データ記録	記録メディア	自動選択、CFメモリーカード	自動選択
	記録ファイル名	自動設定、指定する	自動設定
	ファイル名		【空】
動画設定	データレート	32k,64k,96k,128k,144k,192k,256k,384k(bps)	64kbps
	画質	高、中、低	中
	解像度	CIF、QCIF、SQCIF	QCIF
	音声	G.726、AMR(中)、AMR(低)、音声なし	G.726
	記録時間	1～300（秒）	30秒
静止画設定	画質	高、中、低	中
	解像度	CIF、QCIF、SQCIF	QCIF

■システム設定

設定項目			設定値	工場出荷初期設定
時刻設定			YYYY年MM月DD日MM分SS秒	正常な時間
アクセス制限設定	動画配信・静止画表示アクセス制限		有効、無効	無効
	動画配信最大セッション数		5.4.3.2.1セッション	5セッション
ユーザー管理	新規ユーザー登録	ユーザーID		【空】
		パスワード		【空】
		パスワード（確認）		【空】
		権限レベル	レベル1.2.3	レベル1
		PPP着信	許可する 許可しない	許可しない
	登録ユーザー一覧	パスワード		adminの初期パスワード：【空】
		パスワード（確認）		adminの初期パスワード（確認）：【空】
		権限レベル		adminの初期権限レベル：レベル3
		PPP着信		adminの初期PPP着信：許可しない

設定項目制限事項

設定項目制限事項

■動画設定

設定項目	設定条件
データレート	ネットワーク帯域以下に設定
解像度	96kbps以下時、CIF設定不可
音声	32kbps時、G.726設定不可

■ネットワーク設定

<table>
<tr><th colspan="3">設定項目</th><th>設定条件</th></tr>
<tr><td rowspan="13">共通設定</td><td colspan="2">カメラタイトル</td><td><制約1>最大31文字</td></tr>
<tr><td colspan="2">ホスト名</td><td><制約1>最大63文字</td></tr>
<tr><td rowspan="3">IPアドレス通知</td><td>メール送信先アドレス</td><td><制約1>最大63文字</td></tr>
<tr><td>FTP転送先ディレクトリ</td><td><制約2>最大127文字</td></tr>
<tr><td>FTP転送ファイル名</td><td><制約1>最大31文字</td></tr>
<tr><td rowspan="5">メール設定</td><td>メールアドレス</td><td><制約1>最大63文字</td></tr>
<tr><td>SMTPサーバー</td><td><制約1>最大63文字</td></tr>
<tr><td>POPサーバー</td><td><制約1>最大63文字</td></tr>
<tr><td>メールID</td><td><制約1>最大31文字</td></tr>
<tr><td>パスワード</td><td><制約3>最大31文字</td></tr>
<tr><td rowspan="3">FTP設定</td><td>FTPサーバー</td><td><制約1>最大63文字</td></tr>
<tr><td>FTP ID</td><td><制約1>最大31文字</td></tr>
<tr><td>パスワード</td><td><制約3>最大31文字</td></tr>
<tr><td rowspan="5">内蔵LAN設定</td><td rowspan="2">固定IPを指定する</td><td>IPアドレス</td><td><制約4></td></tr>
<tr><td>サブネットマスク</td><td><制約5></td></tr>
<tr><td colspan="2">デフォルトゲートウェイ</td><td><制約4></td></tr>
<tr><td rowspan="2">DNSサーバー</td><td>DNSプライマリー</td><td><制約4></td></tr>
<tr><td>DNSセカンダリー</td><td><制約4></td></tr>
</table>

PPP設定	発信機能	電話番号	<制約6>最大31文字
		PPP ID	<制約1>最大31文字
		パスワード	<制約3>最大31文字
	固定IPアドレスを自動的に割り当てる	IPアドレス	<制約4>
		サブネットマスク	<制約5>
	DNSサーバー	DNSプライマリー	<制約4>
		DNSセカンダリー	<制約4>
	PPP着信	PPP受信IPアドレス	<制約4>
		PPPクライアントIPアドレス	<制約4>
		着信許可番号	<制約6>最大31文字
無線LAN設定	固定IPを指定する	IPアドレス	<制約4>
		サブネットマスク	<制約5>
	無線設定	WEP Key	<制約7>10桁(64Bit時)、26桁(128Bit時)
		SSID	<制約1>最大31文字
	デフォルトゲートウェイ		<制約4>
	DNSサーバー	DNSプライマリー	<制約4>
		DNSセカンダリー	<制約4>
PPPoE設定	PPPoE	PPPoE ID	<制約1>最大31文字
		パスワード	<制約3>最大31文字
	固定IPを指定する	IPアドレス	<制約4>
	DNSサーバー	DNSプライマリー	<制約4>
		DNSセカンダリー	<制約4>

■トリガー設定

設定項目		設定条件
通知・データ転送先	メール送信先アドレス	<制約1>最大63文字
	FTP転送先ディレクトリ	<制約2>最大127文字
	ユーティリティ通知先IPアドレス	<制約4>
データ記録	記録ファイル名	<制約1>最大8文字
動画設定	動画記録時間	1～300秒

■システム設定

設定項目			設定条件
時刻設定			2000年～2035年、24時間表記
ユーザー管理	新規ユーザー登録	ユーザーID	<制約1>4～8文字
		パスワード	<制約3>4～8文字
		パスワード(確認)	<制約3>4～8文字
	登録ユーザー一覧	パスワード	<制約3>4～8文字
		パスワード(確認)	<制約3>4～8文字

■制約1
半角英数字のみ使用化。ただし、「”」「#」「&」「’」「＊」「／」「:」「<」「=」「>」「?」「¥」「|」の使用を禁止

■制約2
半角英数字のみ使用化。ただし、「”」「#」「&」「’」「＊」「:」「<」「=」「>」「?」「|」の使用を禁止

■制約3
半角英数字のみ使用化。ただし、「”」「#」「’」「=」の使用を禁止

■制約4
使用可能なIPアドレスについて
xxx.xxx.xxx.xxx形式（xxxは0～255）
ただし下記を禁止
0.xxx.xxx.xxx
127.xxx.xxx.xxx
224.xxx.xxx.xxx～255.xxx.xxx.xxx

■制約5

使用可能なサブネットマスクついて
0～31bitの連続したbitによる設定のみ許可。すなわち下記を許可

使用可能なサブネットマスク			
128.0.0.0	255.128.0.0	255.255.128.0	255.255.255.128
192.0.0.0	255.192.0.0	255.255.192.0	255.255.255.192
224.0.0.0	255.224.0.0	255.255.224.0	255.255.255.224
240.0.0.0	255.240.0.0	255.255.240.0	255.255.255.240
248.0.0.0	255.248.0.0	255.255.248.0	255.255.255.248
252.0.0.0	255.252.0.0	255.255.252.0	255.255.255.252
254.0.0.0	255.254.0.0	255.255.254.0	255.255.255.254
255.0.0.0	255.255.0.0	255.255.255.0	

■制約6

「0」～「9」、「#」「*」のみ使用可

■制約7

「0」～「9」、「A」～「F」、「a」～「f」、のみ使用可

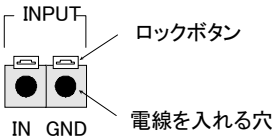
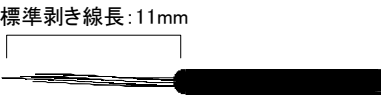
トリガー端子について

■**トリガー入力端子の仕様**　　*※ご利用はサポート対象外です。*

・　使用可能電線範囲

単線　: φ0.4mm（AWG26）～φ1.2mm（AWG16）

より線: φ0.3mm^2（AWG22）～φ1.25mm^2（AWG16）

素線径: φ1.18mm以上

トリガー入力端子外形図

■**トリガー入力端子の仕様**

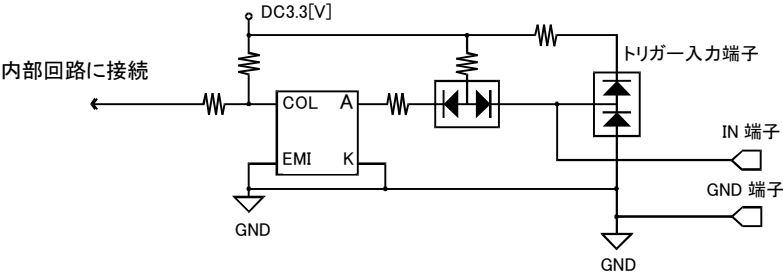
・トリガー入力端子: 無電圧接点入力

・コネクタ　　　　:スクリューレス端子台（サトーパーツ: ML-800）

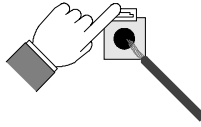
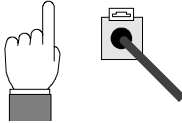
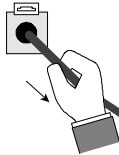
・GNDレベルは、端子台“GND”端子とします。

入力電圧

		max[V]	min[V]
(1)	Hightレベル電圧（ViH）		2.0
(2)	Lowレベル電圧（ViL）	0.8(※)	

※接点電流33mA、24Ω以下で短絡

トリガー入力回路図

■スクリューレス端子台の使い方

1. ロックボタンを押し、ロックを解除して、電線を穴に入れます。

2. ロックボタンを放し、電線をロックします。

3. 電線を軽く引っ張り、確実に固定されているか確認します。

マイナスドライバーなどで（軸径3mm、刃先巾2.6mmを推奨）ロックボタンを押すことにより、端子台内部のゲートが開き、電線の出し入れが可能になります。

お手入れについて

本製品のお手入れ

本製品の汚れは柔らかい布などで軽くふき取ってください汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤にひたした布をよく絞って拭き取り、乾いた布でから拭きしてください。

注意

- 本製品の表面はABS樹脂が使われています。ベンジン・シンナーなどの薬品で拭いたり、日焼け止めクリームや化粧品が付着すると変色することがありますので、ご注意ください。

レンズのお手入れ

本製品本体カメラ部分のレンズのお手入れは、カメラ用のブロワーで軽く拭き取るように行なってください。

注意

- 特に、砂やホコリの付着した状態では強く拭かないでください。レンズが傷つく恐れがあります。

端子、プラグ、コネクタなどのお手入れ

端子、プラグ、コネクタなどに付着した汚れなどは、乾いた綿棒などでお手入れしてください。これらが汚れていると接触が悪くなり、正常に動作しない場合があります。

注意

- お手入れの際は、必ず電源を切断してください。
- 電源プラグをコンセントから抜き、本製品に接続されている各種ケーブルやCFカードなどを取り出してください。
- 火災、感電、漏電、故障の原因となります。

セキュリティについて

本製品のご使用にあたり、管理者（レベル3の権限をもつユーザー）のパスワードを設定されることを強くお勧めいたします。
管理者用パスワードを設定しない場合、他のネットワーク上から他者により、お客様がおもちの本製品に対して設定変更などが行なわれてしまう可能性があります。
これはセキュリティ上、非常に危険です。
管理者パスワードを設定することにより、安全に本製品をご使用になられることをお勧めいたします。
また、本製品へあ管理者以外においても、設定操作の権限を持つユーザーを登録することが可能です。ユーザー登録の際には、登録情報の取り扱いに十分ご注意ください。

重要

・ユーザー管理、パスワード管理の方法につきましては、別途記載しております。
詳細は、「ユーザー管理」（141ページ）を参照してください

アフターサービス

① まず、弊社ホームページをご確認ください。

本書【困ったときには】で解決できない場合は、サポートWebページ内の「製品Q&A、Newsなど」もご覧ください。過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。

http://www.iodata.jp/support/

製品Ｑ＆Ａ
Newsなど

ファームウェアをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のファームウェアをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
ファームウェア

② それでも解決できない場合は…

住所：　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　サポートセンター
電話：　本社…076-260-3644　東京…03-3254-1144
※受付時間　9:30～19:00　月～金曜日（祝祭日を除く）
FAX：　本社…076-260-3360　東京…03-3254-9055
インターネット：　http://www.iodata.jp/support/

・お知らせいただく事項について

1. ご使用の弊社製品名
2. ご使用のパソコン本体の型番
3. ご使用のOSとソフトウェアのバージョン
4. トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

ファームウェアのバージョンアップについて

本製品は内部のファームウェアのバージョンアップ(更新)を行なう事が可能です。この機能により、CFカードのサポートの追加や機能拡張などを行なうことが可能となります。通常ならば、ファームウェアの更新作業は複雑ですが、本製品ではアップデートユーティリティにより、簡単にバージョンアップできます。アップデート方法につきましては、サポートページにてご確認ください。
サポートページは、「お問い合わせ先およびサポート窓口」(216ページ)を参照してください。

注意

・ファームウェアの更新作業を行なうことができるのは、【ユーザーの管理】の【レベル3】の権限を持ったユーザーのみとなっております。
詳細は「ユーザー管理」(141ページ)を参照してください
・ファームウェアの更新を行なう環境は、本製品とお使いのパソコンをLANクロスケーブルを用いて一対一で接続したネットワーク環境が前提となっております。それ以外のネットワーク環境ではアップデートユーティリティの動作は保証いたしかねますので、ご注意ください。

修理について

修理の前に

故障かな？と思ったときは、
①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。
②弊社サポートセンターへお問い合わせください。
（【サポートセンターへのお問い合わせ】をご覧ください）

故障と判断された場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

・保証期間中は、無料にて修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有料となります。
※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。
※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）

修理について（つづき）

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、ハードウェアシリアルNO.、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）
※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。

・下の内容を書いたもの
返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］,日中にご連絡できるお電話番号,
ご使用環境（機器構成、OSなど）,故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。

・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。
※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください

・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。
※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理係　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。
※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。